



CSR取り組みに関する報告書

シスメックス
あんしんレポート
2009



編集にあたって

編集方針

シスメックスの社会的責任(CSR)に関する考え方とその活動について、ステークホルダーの皆様へお伝えし、皆様との対話を深めることを目的として、毎年「シスメックスあんしんレポート」を発行しています。

第3回の発行となる今回は、グローバルに事業を展開するシスメックスのCSR活動をご理解いただくために、グループ全体で取り組んでいる活動や海外グループ会社の活動をできるだけ多く報告するように努めています。また、ステークホルダーの皆様の関心が特に高いと考える活動については、「特集」を組んで報告しています。

報告範囲

対象期間

2008年度(2008年4月1日から2009年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

対象組織

原則としてシスメックスグループ(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを指します。

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002/2006」

発行時期

2009年8月

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進室
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
TEL. 078-265-0500(代表) FAX. 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックス株式会社とそのグループ会社に関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。

表紙写真提供: 今村健志朗/JICA

目次

- 3 シスメックスについて
- 5 トップメッセージ
- 7 企業理念・行動基準

- 9 特集1 インフルエンザウイルスの
感染拡大防止に役立つ
検査技術の研究開発を推進
- 11 特集2 グローバルヘルスケア企業として、
世界的な課題である
HIV/エイズ対策に貢献

- 13 コーポレート・ガバナンス

- 17 お客様への責任と行動
- 21 従業員への責任と行動
- 25 取引先への責任と行動
- 27 株主への責任と行動
- 29 企業市民としての責任と行動

- 33 地球環境への責任と行動
- 33 環境マネジメント
- 35 事業活動にともなう環境負荷
- 36 2008年度環境活動計画と実績
- 37 生産工場・事業所における環境配慮
- 39 環境に配慮した製品の開発
- 40 環境サイトデータ(生産・物流拠点)

医療・ヘルスケア領域における「検体検査」のフロントランナー

シスメックスは、世界150以上の国々の医療機関に向けて、血液分析や尿、免疫、生化学などの検体検査機器・試薬の製品やサービス&サポートを提供しています。また、がんや糖尿病などのライフサイエンス分野にも事業を拡大、病気をマネジメントするというコンセプトのもと、価値の高い検査や診断技術の研究開発に取り組んでいます。

事業内容

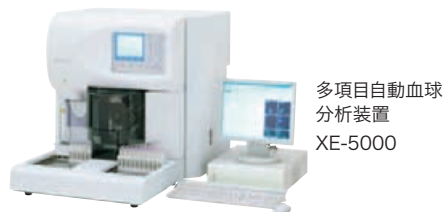
検体検査事業

検体検査事業では、血液中の赤血球・白血球の数や機能を分析する血球計数検査、血液が固まって止血する働きを調べる血液凝固検査、肝炎ウイルスなどの有無を調べる免疫血清検査、尿中の糖・タンパク質・血球の有無を調べる尿検査などの検体検査に必要な装置や試薬、臨床検査情報システムなどの製品とサービス&サポートを幅広く提供しています。

血液分析装置



HS搬送システム
HSTシリーズ



多項目自動血球
分析装置
XE-5000



多項目自動血球
分析装置
XS-1000i

血液凝固測定装置



全自動血液凝固
測定装置
CS-2000i

全自動免疫測定装置



全自動免疫測定装置
HISCL-2000i

尿検査装置



全自動
尿中有形成分
分析装置
UF-1000i

検体検査試薬



凝固試薬

簡易検査用キット



インフルエンザウイルスキット
ポクテムSインフルエンザ

ライフサイエンス事業

ライフサイエンス事業では、がん細胞の転移の有無を検出する遺伝子増幅検出装置など、特にがんを対象として、その予防や再発・悪化予防のための新しい診断技術の開発に取り組んでいます。



遺伝子増幅検出装置 RD-100i

新規事業

科学計測分野では、セラミックス、電子材料、研磨剤、食品などの産業に、細粒子を正確に計測・評価する装置を提供しています。また、健康分野では、採血せずにヘモグロビンを測定する装置など、独自の技術を活かした新しい分野への挑戦を続けています。

科学計測分野(産業用粒子計測装置)



フロー式粒子像分析装置
FPIA-3000

健康分野



末梢血管
モニタリング装置
ASTRIM SU



ロゴマークについて

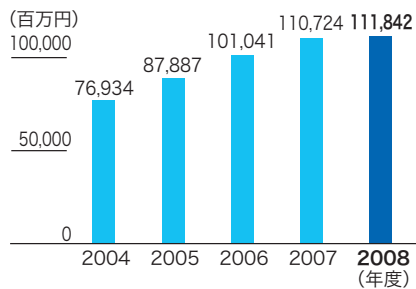
相対的な2つのエレメントを組み合わせたマークは、相反する概念の融合と昇華を象徴しています。「∞(無限)」を想起させる形状は、シスメックスに秘められた無限の可能性を、そして、モチーフとなる海と山は生命の「進化」およびシスメックスの誕生地である「神戸」の景観を表しています。

- シスメックスブルー：新しいコーポレートカラー、フロントランナーとしての「責任」と「誇り」
- シスメックスブルーオーシャン：「進化」「革新性」「先進性」と「知性」「清潔感」「安定性」
- シスメックスグリーンマウンテン：人々の「健康」「安心」、地球、自然環境との「共生」「調和」「バランス」

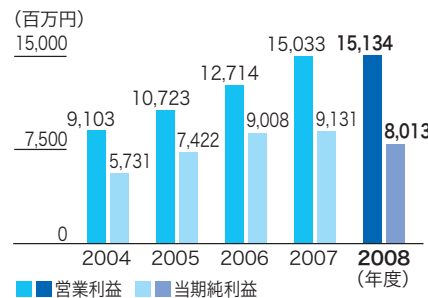
会社概要

<p>社名 シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION</p> <p>設立 昭和43年(1968年)2月20日</p> <p>資本金 86億8,500万円</p> <p>代表者 代表取締役社長 家次 恒</p> <p>本社所在地 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号</p>	<p>事業内容 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入</p> <p>主な販売先 国公立病院、一般病院、大学、研究所、その他医療機関 ほか</p> <p>輸出先 世界150カ国以上</p> <p>連結対象会社 37社(国内6社、海外31社)</p>
--	---

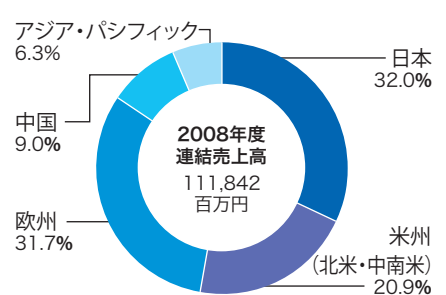
連結売上高



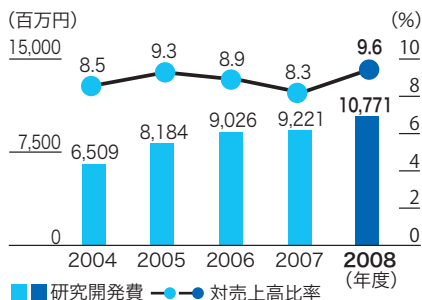
連結営業利益/連結当期純利益



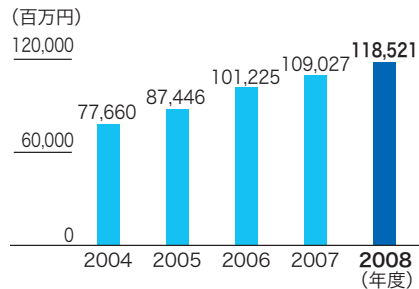
地域別売上高



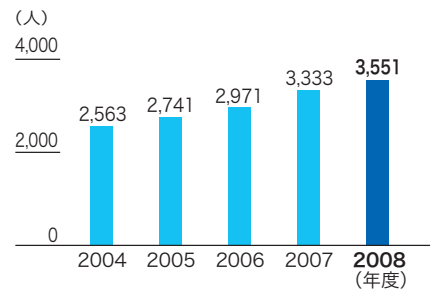
研究開発費



連結総資産



グループ従業員数



ヘルスケアカンパニーとして、シスメックスはお約束します。
価値の高い検査・診断技術を創出し、世界の人々の生命と健康を支えるとともに、確かな安心をお届けしていきます。

創業以来の想いを確認し、新たな可能性に向かう

2008年度は、シスメックスにとって大きな区切りの年となりました。創立40周年を迎え、新ブランドの発表、新研究開発拠点「テクノパーク」の開設、「VQ(バリュエークエスト)セッション(全従業員参加の提案活動)」の実施、テクノパーク公開イベントの開催など、さまざまな記念事業を実施しました。その中で、国内外の多くのステークホルダーの方々とお会いすることができ、皆様からの長きに渡るご支援を再認識し、感謝の気持ちを新たにしました。

40周年を機に刷新したコーポレートロゴには、「人々への安心の提供」という、創業以来の変わらぬ想いを込めるとともに、「先進の技術で未来を切り拓くフロントランナー」という未来に向けた想いも込めました。また、「We Believe the Possibilities(可能性を信じる)」という新しいメッセージもあわせて策定しました。シスメックスは、自らの可能性を信じながら、先進の技術の人々の健康へとつなぎ、皆様に確かな安心を提供し続けていくことをお約束します。

医療・ヘルスケアが抱える課題の解決を目指して

人々の健康と医療・ヘルスケアの発展に貢献すること。これがシスメックスが果たさなければならない最も大きな責任であると考えています。世界の医療・ヘルスケアは着実に進展しているものの、まだ多くの課題があります。日本やアメリカ、ヨーロッパなどの先進国では、高齢化の進展や生活習慣病の増加にともない、がんや糖尿病などの患者さん一人ひとりの「QOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)」の向上が求められています。また、医療費の増大を背景として「予防医療」や「疾患マネジメント」への期待が高まっています。アジアなどの新興国では、人口が増加し、経済が成長を続ける中で、社会保障制度や医療インフラの整備の地域間格差が広がっています。アフリカなどの発展途上国では、人々が

十分な医療を受けることができない地域もまだ多くあり、こういった地域ではHIV/エイズやマラリアなどの深刻な感染症が蔓延しています。また、世界的な大流行が懸念されている「新型インフルエンザ」の課題もあります。

シスメックスは、事業活動や社会貢献活動を通じてこうした課題の解決に向けて取り組んでいます。例えば、ヨーロッパや日本では、乳がんリンパ節の転移を迅速に検査する技術を製品化し、2008年から順次販売を開始しています。アジアの新興国では、血液検査の標準化を推進したり、学術セミナーを開催するなどして医療インフラの整備や地域格差解消を支援しています。アフリカなどの発展途上国では、医療の普及やHIV/エイズ撲滅に向けて、血液検査装置を各地の医療施設に寄贈しています。また、現地医療従事者の教育を支援し、臨床検査技術の向上を図っています。新型インフルエンザについては、鳥インフルエンザウイルスなどをターゲットとして研究開発を進めており、感染拡大防止に貢献できるような検査技術・製品の開発に取り組んでいます。

「ものづくり企業」として地球環境保全に取り組む

また、シスメックスは、地域社会への参画や、地球環境の保全も重要な責任であると考えています。

地域社会への参画については、神戸への医療・産業の集積を目指す「神戸医療産業都市構想」への参画など、医療分野をはじめとする多彩な分野で取り組んでおり、活動する地域は世界中に広がっています。また、地震・津波など大規模な災害についても、被災した医療施設での検査機器の点検、修理や製品の寄贈など、積極的に復旧を支援しています。

地球環境の保全については、喫緊の重要課題として取り組みを進めています。2008年度は、温室効果ガス排出については、生産量が増加したこと、研究開発拠点の敷地を拡大したことによって、総排出量は増加しました。一方、工場の廃棄物削減、リサイクル推進などが進展し、大きな効果が出ました。

2009年5月には新しい環境方針を制定し、製品の設計・生産・販売・使用・廃棄というライフサイクルの各段階での環境負荷低減に向け重点的に取り組むことを明確にしました。「ものづくり企業」として、特に、製品開発における環境技術の創出や生産工程の革新などの環境活動を推進していきます。

大切な経営資源である従業員を活かす

従業員は、シスメックスにとって最も大切な経営資源です。従業員一人ひとりが自らの能力を伸ばし、それを存分に発揮できるような環境を整備することも重要な責任の一つです。2009年4月には、その一環として、テクノパーク内に企業内託児所「キッズパーク」を開設しました。

また、従業員の提案を経営に活かすためのプログラム「VQ

セッション」を実施しました。世界各地の従業員から新しい事業活動や社会貢献活動、環境保全活動などに関する多くの提案が寄せられ、グループの活性化を図ることができました。また、従業員が組織や地域の枠を超えて議論したことは、グループ全体のナレッジの共有や多様性の理解にもつながりました。

シスメックスは、新しいメッセージ「We Believe the Possibilities」のもと、グループと社会の持続可能な発展を実現するために、自らの可能性を信じて挑戦し続けます。

ステークホルダーの皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

冨 次 恒



シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

Sysmex Wayを実践し、 「安心」をかたちにしていきます

創立40周年を迎えた2008年度、シスメックスは、これからもヘルスケアの進化に貢献し、ステークホルダーの皆様には確かな安心をお届けし続けるために、研究開発基盤の整備としてテクノパークを開設するとともに、グループ従業員に対し企業理念Sysmex Wayの浸透プログラムを実施しました。

創立40周年を迎えて

新研究開発拠点「テクノパーク」を竣工しました

2008年10月、「知」の創造と継承」をコンセプトとする新研究開発拠点「テクノパーク」を竣工しました。シスメックスは、このテクノパーク竣工を契機として、ヘルスケア分野における技術革新を加速していきます。開発者・技術者のナレッジを集めてこれまでに培った技術に磨きをかけ、価値の高い検査技術を創出し、世界に発信していきます。

テクノパーク開設後、国内外のお客様をはじめとして取引先、株主、そして地域住民の皆様にお越しいただき、最新の設備をご覧いただくとともに、これからのシスメックスが目指す姿を映像などでご紹介しています。開設後半年間で、従来の約10倍となる2,000名以上の方に見学にお越しいただいています。

従業員への理念の浸透

従業員一人ひとりが Sysmex Wayの実践を考えました

2008年度には、企業理念Sysmex Wayをどのように実践していくかを従業員一人ひとりが考え、皆で議論する「VQ（バリュークエスト）セッション」を開催しました（P22参照）。

海外のグループ従業員も含め、約3,700件の提案が寄せられ、組織や地域の枠を超えて1年間議論を繰り返しました。選ばれた提案は、具体的なかたちで順次実践に移しています。

また、この活動は、企業活動の活性化や従業員の連帯感の醸成につながりました。VQセッションは、今後も継続して実施する予定です。

CSR活動をグローバルに推進していきます

Sysmex Wayの実践を通じてステークホルダーの皆様には「安心」をお届けすることがシスメックスのCSR活動です。

シスメックスはグループ全体で約4,200名の従業員を抱え、その4割以上が海外で活動しています。CSR活動をさらに充実させるためには、日本だけでなく海外も含めグローバルで活動を推進していく必要があります。グループの従業員一人ひとりがSysmex Wayを共有し、日々の業務の中で具体的な行動に移すことが大切です。

今後も、VQセッションや理念の浸透教育などを通じて、組織や地域を超えて活発にコミュニケーションできるような企業風土を醸成していきます。



取締役 専務執行役員
CSR・環境推進担当 雪本 賢一

1 インフルエンザウイルスの 感染拡大防止に役立つ 検査技術の研究開発を推進

2009年、豚に由来する新型インフルエンザ(インフルエンザA(H1N1))が発生し、世界中に感染が広がりました。このような、人が免疫を持たない鳥や豚などの動物に由来する新型インフルエンザの世界的流行の危険性は以前から指摘されてきました。シスメックスは、鳥インフルエンザウイルスを特異的に検出する技術の研究開発を進めており、感染拡大の防止に役立つよう製品化を目指しています。



インフルエンザウイルス検査技術の研究開発

インフルエンザウイルスの変異と 世界的大流行の脅威

2009年4月、メキシコで豚に由来する新型インフルエンザが発生しました。このウイルスは弱毒性でしたが感染力が強く、瞬間に世界40カ国以上に拡大し、感染者は1万人以上、死者は80人以上に上りました[※]。今後、このウイルスは変異を繰り返し、近いうちに、さらに大きな被害をもたらすのではないかとされています。

一方で、高い病原性を持つ鳥のインフルエンザウイルスの人への感染も懸念されています。これはWHO(世界保健機構)が当初、世界的大流行を予想していたウイルスです。通常、人には感染しませんが、濃厚接触した場合、稀に感染することがあり、近年、アジアの国々で感染者が発見されています。このウイルスは強毒性であり、感染した場合、致死率は60%を超えるとも言われています。

インフルエンザウイルスは、過去から現代に至るまで次々と変異を繰り返しながら人々の健康を脅かしてきました。ウイルスを根絶することは不可能と考えられており、だからこそ人への感染の拡大に備えて医療体制を整備しておくことが非常に重要です。シスメックスは、このインフルエンザウイルスの感染を迅速・簡便に検査できる技術の開発に取り組んでいます。

[※] 2009年5月にWHOが発表した数値に基づく。



2009年5月 日本

鳥インフルエンザウイルスだけを迅速・簡便に検出する技術

シスメックスは2002年、人のインフルエンザのA型、B型の感染を迅速、簡便に診断できるキット「ポクテム インフルエンザA/B」を日本で発売し、現在、多くの診療所や病院で役立てられています。

2008年度には、大阪府立公衆衛生研究所と共同で鳥インフルエンザウイルスを迅速・簡便に検出できる技術を開発しました。

万が一、鳥インフルエンザウイルスが変異し人から人に感染し始めた時、感染の拡大を抑制し、健康被害を最小限にとどめるためには、感染者を早期に発見、隔離することが重要です。また、感染者のウイルスを特定し、早期に治療を開始しなければなりません。

そのためには、診療所や病院などの医療機関や、空港や港などで迅速に検査できる体制を整備することが必要です。しかし現在一般に使用されているヒトインフルエンザウイルス簡易診断キットは、インフルエンザに感染していることは調べられますが、それがA型やB型など従来の季節性のもなのか、それとも鳥由来の新しいインフルエンザウイルスによるものなのかを判別することはできません。判別には、数少ない専門機関でウイルスの遺伝子を調べる必要があり、この検査は数時間～1日程度の時間がかかります。

シスメックスは、大阪府立公衆衛生研究所との共同研究によって、鳥インフルエンザウイルスとヒトインフルエンザウイルスの核たんぱく質の構造にわずかな違いがあることを突き止め、これを目印に鳥インフルエンザウイルス(H5、H7、H9型)のみを迅速・簡便に検出できる技術を開発しました。この技術は、核たんぱく質の特異的な部分を検出するため、鳥インフルエンザウイルスの表面が変異した場合でも検出できると考えています。また、大きな設備や専用装置も不要で、いつでもどこでも簡単に検査

シスメックス インフルエンザウイルスA型B型抗原検出キット(日本にて販売)



「ポクテム インフルエンザA/B」



「ポクテムS インフルエンザ」

鼻腔吸引液、鼻腔拭い液および咽頭拭い液を用いて、A型インフルエンザウイルスとB型インフルエンザウイルスを検出します。「ポクテムS インフルエンザ」では、約10分と迅速な検査が可能です。

注) 両製品は、ウイルス表面抗原の亜型に左右されずにA型インフルエンザウイルスを検出します。したがって、2009年4月に発生した新型インフルエンザA(H1N1)もA型インフルエンザの亜型のひとつであることから、理論的には両製品で検出できると推測されます。ただし、現時点において、実際に新型インフルエンザに感染した患者さんでの検出データはありません。

することができ、さらに、約10分という短時間で検出が可能のため、病院や診療所、空港や港で感染者を素早く隔離して感染拡大を抑制する検査方法として有効であると考えています。

現在は、「研究用キット」として研究機関などに限定して提供する準備を進めています。これから機関で有用性を十分確認した後、「臨床用キット」として製品化を進める予定です。

さまざまな感染症に関わる検査技術を開発

世界にはインフルエンザをはじめ、人々の生命・健康を脅かすさまざまな感染症が多数存在しています。その中には、今後、地球温暖化によって活動範囲を広げ、人々の健康被害を拡大させるのではないかと懸念されているものもあります。

シスメックスは、インフルエンザを含むさまざまな感染症を研究対象として、これら感染症の拡大防止に役立つような検査技術の研究開発を推進していきます。

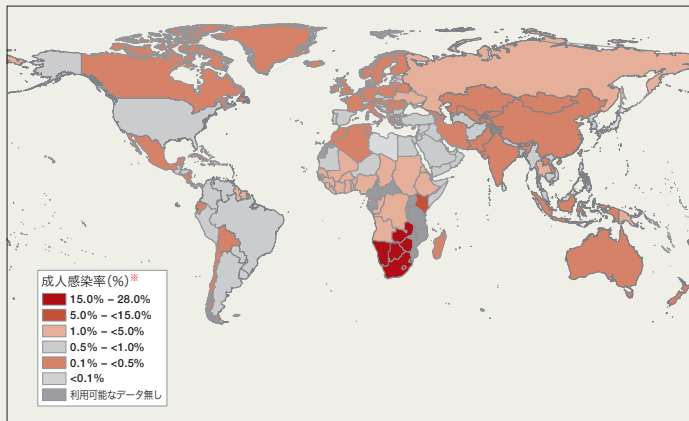
(ご注意)

この特集記事は、2009年5月現在の状況をもとにしており、将来の予測と異なる場合があります。また、主に日本の医療体制を中心に記載しており、他の国と状況が異なる場合があります。さらに、当社の鳥インフルエンザウイルス(H5、H7、H9など)を検出する技術開発の経緯について述べており、2008年4月に発生した豚由来新型インフルエンザ(インフルエンザA(H1N1))ウイルスを検出する技術に関する内容ではありません。

特集 2 グローバルヘルスケア企業として、世界的な課題である HIV/エイズ対策に貢献

シスメックスは、世界150以上の国々に臨床検査機器や試薬・サービスなどを提供するグローバルヘルスケア企業として、世界的な課題であるHIV/エイズ対策に貢献しています。コンパクトで使いやすい当社血液分析装置「pocH-100i」とHIV検査キットをアフリカ諸国の医療機関に対して販売、寄贈することで、広くHIV検査の普及に努めています。

世界のHIV感染状況(2007年)



出典：(財)エイズ予防財団「世界のエイズの流行に関する報告2008」

※成人感染率(%)：成人(15-49)人口に占める感染者の割合

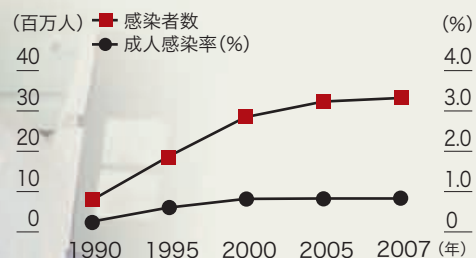
HIV/エイズ対策に役立つ血液検査機器を寄贈

HIV/エイズの蔓延防止は、「ミレニアム開発目標※」において、世界が一致して取り組むべき重要な課題の一つに挙げられています。しかし、いまだ世界中で感染者数・患者数ともに増加し続けており、世界のHIV感染者数は3,320万人(2007年現在)にまで増加し続けています。特にアフリカ南部は深刻で、世界の感染者の6割以上が集中しており、死亡原因の1位になっています。

シスメックスは、HIV/エイズの蔓延防止に向け、2006年からアフリカなど医療インフラの整備が進んでいない開発途上国の医療機関に血液検査機器・試薬などを販売、寄贈し、HIV感染者のウイルスのモニタリングに役立てていただいています。

※ミレニアム開発目標：2000年9月に189カ国の首脳が会した「国連ミレニアムサミット」で採択された「ミレニアム宣言」に基づいて、「極度の貧困と飢餓の撲滅」「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」「乳幼児死亡率の削減」「妊産婦の健康の改善」など21世紀に国際社会が最も緊急に取り組むべき8つの目標を定めたもの。

世界のHIV感染者推計数



出典：(財)エイズ予防財団「世界のエイズの流行に関する報告2008」



アフリカ タンザニア



多項目自動血球計数装置 pocH-100i



セネガルでの
当社製品の寄贈式典

コンパクトで使いやすく、地方の 診療所や小規模病院でも使用可能

HIV感染者は、健康状態をチェックするために数カ月ごとに検査を受け、血液中のウイルスの状態をモニタリングする必要があります。検査では、血液中の白血球の一種であるCD4陽性リンパ球を測定します。CD4陽性リンパ球は、体の免疫全体を調整する働きを持ち、ウイルスが増殖すると、破壊され数が減少するため、感染者の免疫力は低下していきます。基準以下になると、感染者は投薬などの治療を始める必要があります。また、この検査は、治療中の患者さんに対しても、投薬治療の効果を見るために実施されます。

アフリカの国々では、こうしたHIV検査をするための装置は大型で高価なため、都市部の一部の病院にしか普及していません。したがって、検査するためには都市部の病院に通うか、または地元の診療所で血液を採り、それを都市部の病院に送らなければならない、その場合、検査結果が判明するのに何日もかかります。いずれの場合も手間がかかり、地方の患者さんや病院にとって大きな負担になっています。

シスメックスは2006年、地方の診療所や小さな病院でも使っていただけるように、コンパクトで使用方法も簡単な血液検査装置pocH-100iを利用したHIV検査方法を発表しました。販売のほか、NPOなどを通じ寄贈も行っており、これまでに南アフリカ、ボツワナ、ベナンなどアフリカの6カ国の病院に寄贈しました。また、検査機器を設置後も継続して利用できるように、必要な試薬や、保守点検などのサービスも数年間にわたって無償で提供しています。

セネガルのHIVナショナルラボ 公認検査機器として認可

2008年12月には、JICA(国際協力機構)の協力のもと、アフリカのセネガルに血液検査機器・試薬、HIV検査キットを寄贈しました。この血液分析装置pocH-100iは、同国が進める母子感染予防プログラムに有効であることから、HIVナショナルラボの公認検査機器として認可されました。寄贈式には、セネガル保健大臣や在セネガル日本国大使にも出席いただき、今後の現地HIV/エイズ対策に大きな期待が寄せられました。

世界が一つになって取り組んできたことで、HIV/エイズ対策は少しずつ前進しており、新規HIV感染者数やエイズによる死亡者数は減少しています。しかし、治療が必要な人のうち、実際に治療を受けている人は25%に満たないという報告もあり、撲滅にはまだ多くの支援が必要です。

今後も、シスメックスは、HIV/エイズの蔓延防止に向け、製品・サービスの提供を通じ、HIV検査の普及に努めるとともに、検査・診断技術の研究開発を推進していきます。



毎年、ODA(政府開発援助)で来日したアフリカの医療技術者に、検査機器のしくみやメンテナンス方法を教えています。



2008年5月に日本の横浜で開催された「アフリカ開発会議写真真展」に協賛しました。

厚い信頼とさらなる飛躍を目指して

シスメックスは、経営の健全性と透明性の向上を図るため、継続してコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。グループ全体で高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を実践することで、グローバル社会からの信頼を獲得し、いっそうの飛躍を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制

経営の健全性と透明性の向上に努めています

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけています。経営の健全性と透明性を高め、経営スピードと経営効率を向上させることが、グループ全体の企業価値の最大化につながると考えています。

取締役会は取締役8名で構成し、経営に関する重要事項を審議しています。当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名で構成する監査役会が、独立的な立場から客観的に取締役の職務遂行を監視しています。

2005年4月から、業務執行の意思決定スピードをいっそう高め、事業環境の変化に迅速に対応できるよう、執行役員制度を導入しています。社長の意思決定のための諮問機関として執行役員会議を設置し、グループの業務全般の重要事項を審議しています。執行役員は14名で、うち取締役兼任が7名です。また、委員会設置会社と同様の役割を持つ指名委員会と報酬委員会も設置しています。

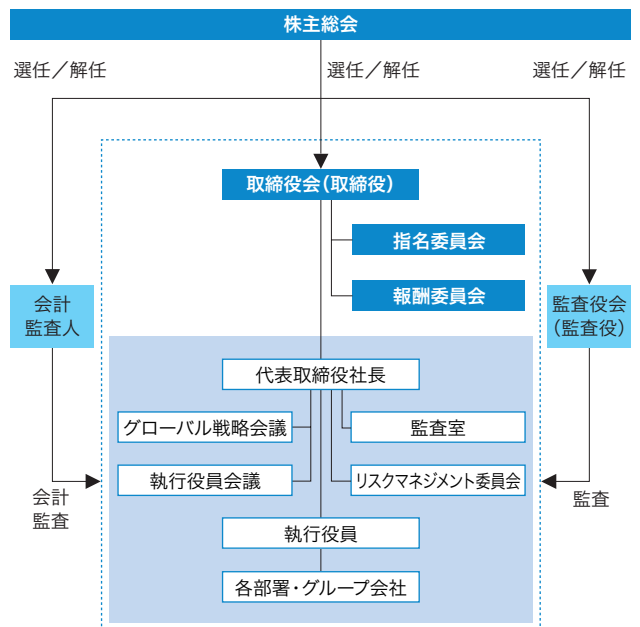
また、ステークホルダーの立場を尊重するために、内部者取引管理規程や、個人情報保護規程、コンプライアンス規程、臨床研究開発に関する倫理規程など、さまざまな規程を制定しています。

ブランド委員会を新たに設置しました

シスメックスは、2008年10月にコーポレートロゴを刷新しました。それにともない、2009年1月には執行役員を委員長とする「ブランド委員会」を新たに設置しました。

委員会では、グループ全体でのブランドの使用方法を審議・評価し、適切に管理することでコーポレートブランド価値の向上を目指しています。

●コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

財務報告の適正性確保に取り組んでいます

財務報告の適正性を確保するために、シスメックスではグループ全体の内部統制システムの構築に取り組んでいます。2008年11月には、「財務報告に係る内部統制管理規程」を制定するとともに、社長の諮問機関として「内部統制委員会」を設置し、内部統制システムの有効性評価などを実施しています。

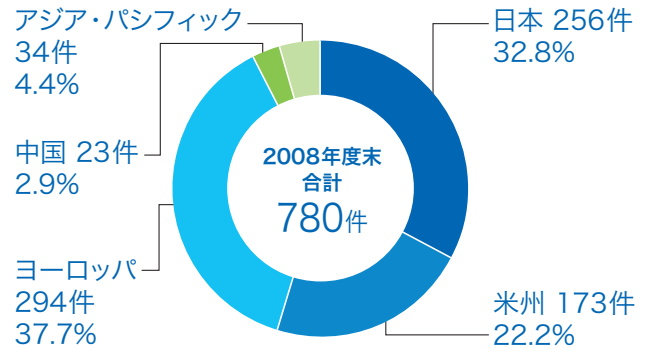
また2008年度には、内部統制に関する業務をグループ全体で標準化するために、ITシステムをアジア・パシフィックエリアのグループ会社に導入しました。2009年度には、日本、ヨーロッパ、中国のグループ会社への導入も完了する予定です。

今後も、常に現状の見直しを行ない、継続的に改善することで、さらに効果的な内部統制システムを整備していきます。

2008年度開催実績



地域別特許保有件数



リスクマネジメント

重要リスクを選定し、未然防止に努めています

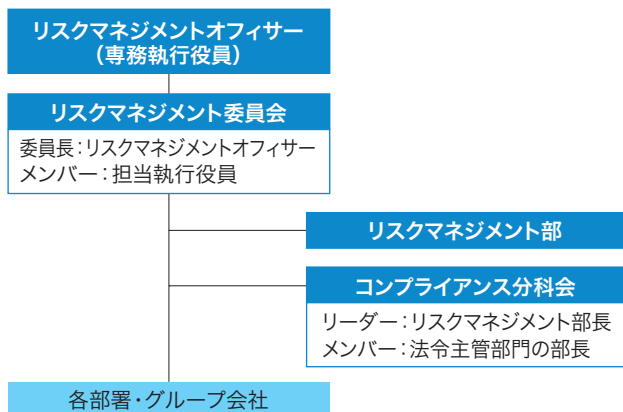
シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、リスクマネジメントの最高責任者である「リスクマネジメントオフィサー」（専務執行役員）を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置しています。

また、「製品品質」「公正取引」「情報漏えい」「安全保障貿易※」「災害」などの特に重要なリスクごとに担当部門を設定し、危機の未然防止策や発生時の対応方法の検討、マニュアルなどの策定を進めています。

なお、2009年4月に発生した新型インフルエンザについては、リスクマネジメント委員会を中心に対応を図り、従業員とその家族の健康を最優先に考え行動しました。

※ 安全保障貿易：国際的な平和と安全を確保する見地から、一部の貨物や技術は、法規制によって輸出が制限されており、企業に輸出先や使用用途の確認が義務付けられている。

● リスクマネジメント体制



安全保障貿易の管理体制を強化しています

シスメックスは、1997年に「安全保障貿易管理規程」を制定して以降、安全保障貿易管理体制の強化に努め、輸出先や使用用途の確認などを間違いなく実行できるよう努めています。国内では安全保障貿易管理担当者を各部門に配置し、自部門の管理強化や従業員教育を実施しています。

また、シスメックスは海外売上高が6割を超えており、海外グループ会社の貿易管理体制の整備も推進しています。2010年をめどに管理業務を可視化できるシステムの導入を進めています。

知的財産管理

他社の知的財産権の侵害防止にも取り組んでいます

シスメックスは知的財産管理に注力し、自社の知的財産権の保護と活用、他社の知的財産権の侵害防止に努めています。

新製品の開発プロジェクトごとに、自社の知的財産を確保するための出願活動や、第三者の知的財産情報をレビューするパテントレビューを実施しています。その中で知的財産部門の担当者と研究開発者をメンバーとする「出願検討会」を開催して、開発中の技術に関して特許出願の方針、計画を立案しています。また、第三者の知的財産権を調査し、知的財産に関わるリスクを最小限にしています。

コンプライアンスコード※

- 1.お客様への安全と安心の提供:** 私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。
- 2.公正な取引と自由な競争の推進:** 私たちは、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。
- 3.公平・適正な情報開示と情報管理の徹底:** 私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

コンプライアンス

グループ全体で「正々堂々とした事業活動」を追求しています

シスメックスでは、コンプライアンスとは「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」とであると定義しています。

この定義に基づいて、事業を進めていくうえで役員・従業員が遵守すべき特に重要なコンプライアンスのルールをまとめた「コンプライアンスコード」を制定しています。同コードは英語、中国語、ドイツ語などの言語に置き換えて、海外グループ会社にも適用しています。

2008年度も、シスメックスにおいて、重要なコンプライアンス違反はありませんでした。

内部通報制度の整備を進めています

シスメックスでは、国内グループの全従業員を対象とした内部通報制度「カンパニユライン」を整備しています。社内と社外の2つの窓口を持ち、コンプライアンスに関する相談や通報を、電話、文書、電子メールで受け付けています。窓口に寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者の個人情報保護を保護しています。

また、海外グループ会社でも内部通報制度の整備を進めており、2009年3月現在、グループ全体で37社のうち34社で窓口の設置を完了しています。

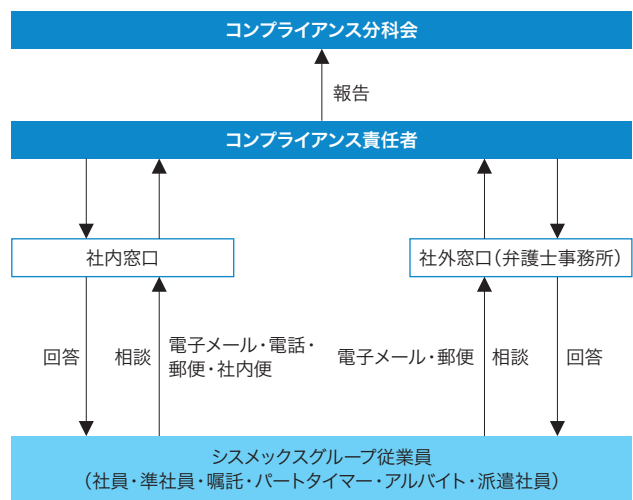
コンプライアンス教育を継続して実施しています

国内では、国内グループ全従業員を対象として、コンプライアンスコードや内部通報制度の仕組みなど、コンプライアンスの基本事項について教育を実施しています。また部門ごとに、それぞれの業務に係る法令について教育を実施しています。

また、新たにeラーニングによるコンプライアンス教育の導入も検討しています。

海外グループ会社については、アメリカ、ヨーロッパ、中国、アジア・パシフィックそれぞれのエリアの統括会社にコンプライアンス責任者を設置するとともに、各グループ会社で教育を実施しています。

●カンパニユラインの仕組み



反腐敗

贈賄などを防止し、取引の公正性を確保するための体制を強化しました

シスメックスは、コンプライアンスコードにおいて、お客様や代理店、同業他社、公的機関などとの取引にあたって関連法令を遵守することを定めています。

2008年度には、シスメックス(株)は、贈賄などの不適切な行為を防止し、取引の公正性の確保を強化するために、「公正な取引推進委員会」を新たに設置しました。その下部組織と

- 4.知的財産権の尊重**：私たちは、第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用しません。
- 5.国際的な平和と安全の維持**：私たちは、輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。
- 6.適正な会計処理と納税の実施**：私たちは、租税に関連する法令その他経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。
- 7.人権の尊重と安全・衛生の向上**：私たちは、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

- 8.公私のけじめと利益相反行為の禁止**：私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。
- 9.社会との健全な関係の保持**：私たちは、公的機関との取引ならびに政治献金を行う際は、関連する法令等を遵守し、常に厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。
- 10.地球環境の保護**：私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2006年4月制定

※ シスメックス(株)のコンプライアンスコードを掲載。海外グループ会社のコンプライアンスコードは、各地域の慣習の違いなどによって一部追加変更しています。

して「教育指導」「調査」「監査」を担当する3つの部会を置き、公正な取引を推進しています。また、「国家公務員倫理規程」や「独占禁止法」などの法令遵守を徹底するための行動基準を定めた「シスメックスプロモーションコード」を制定し、営業活動に従事する従業員に対して教育を実施しました。

今後も、従業員教育を継続するとともに、コードの遵守状況を監査していきます。

研究倫理

社外の視点も取り入れて 研究内容を審査しています

臨床研究やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、シスメックス(株)は、「人間の尊厳の尊重」「個人情報保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定めています。

また、研究内容を審査するために、法律・科学の専門家や一般市民の方などの社外委員も含む「研究倫理審査委員会」を設置しています。委員名簿や議事録を当社Webサイトなどで公開し、研究開発の透明性を確保しています。

さらに、2008年度には「研究開発管理委員会」を新たに発足し、生物材料を使った実験方法や管理方法の妥当性などを検討しています。

人権の尊重

ブラジルのグループ会社が、SA8000※の認証取得に向け活動を開始しました

シスメックスは、コンプライアンスコードの「7.人権の尊重と安全・衛生の向上」において、従業員の基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせなどをしないこと、職場の安全・衛生に努めるとともに不当な労働を強制しないことを定めています。

2008年度には、グループ会社シスメックスブラジルは、労働者の基本的人権の保護に関する国際的な規格SA8000の認証を取得するための活動を開始しました。従業員を対象として同規格に関する説明会を実施するとともに、2010年3月の認証取得を目指して計画を作成しました。

※ SA8000：国際労働機関(ILO)の諸条約や、「世界人権宣言」、「国連子どもの権利条約」に基づいて米国のCSR評価機関が策定した規格。認証取得には、「児童労働の撤廃」「強制労働の撤廃」「労働者の健康と安全」「結社の自由と団体交渉の権利」「差別の撤廃」「肉体的な懲罰などの撤廃」「労働時間の管理」「基本的な生活を満たす報酬」の9つの領域で要求事項を満たす必要がある。



SA8000認証取得に向けたミーティング(シスメックスブラジル)

絶対的な高品質と期待を超える満足を追求

シスメックスは、高い品質の製品・サービスを提供することはもちろん、お客様の安全や使いやすさを確保し安心して使用いただくためのしくみづくりに取り組んでいます。また、コミュニケーションを充実させることで、お客様が真に求めるものが何かを追求し、ご期待を超える満足を提供することを目指しています。

品質の確保

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組めます。

2007年5月制定

2008年度には、この検証会を160回以上実施しました。

また、開発者の品質教育にも注力しており、製品の品質・安全性の管理責任者「リスクアドバイザー」が中心となって、新製品開発時や既存製品の設計変更時などにリスク評価を実施する「リスクエンジニア」を養成しています。

グローバルな品質保証体制の強化に向けたミーティングを実施しています

シスメックスは、いつでもどこでも正確な検査結果をご提供できるよう、世界中で製品・サービスの品質の維持・向上に取り組んでいます。

2008年6月には「グローバルQA(クオリティ・アシュアランス)ミーティング」を開催しました。日本のシスメックス(株)と、アメリカ、ヨーロッパ、中国、アジア・パシフィックの各地域統括会社や関係会社から品質マネジメントシステムの担当者が集合し、グローバルな品質保証体制を強化するための組織体制や方針、ガイドライン、さらに各地域の課題などについて意見を交換しました。

製品の信頼性を確保するためのしくみを強化しています

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。シスメックスは、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全性規格を満たすことはもちろん、信頼性を維持するためのしくみを構築し、その強化に努めています。データの精度やユーザーの安全性など、想定しうるさまざまなリスクを対象としたリスク評価を繰り返し実施しています。また、販売・学術・サービス部門のメンバーが、ユーザーの視点から試作品の性能、使いやすさ、安全性などを検証する機会を設けています。



グローバルQAミーティング

シスメックス(株)を含むグループ全38社のうち、品質マネジメントシステムの国際的な規格であるISO9001の認証を取得している会社の数(2009年3月末現在)。なお、開発、生産の機能を持つ会社はすべて認証取得を完了しています。



遺伝子増幅検出装置 RD-100i



遺伝子増幅検出試薬 リノアンプBC

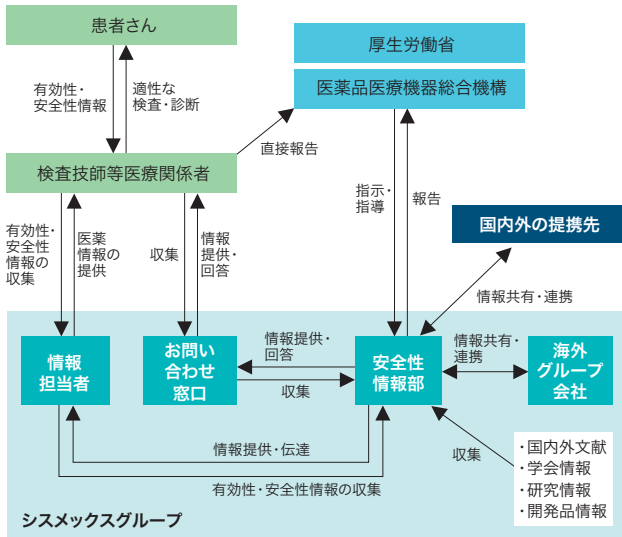
シスメックス(株)は、厚生労働省から2008年6月、乳がんリンパ節転移検査試薬の製造販売承認を取得しました。また、同年11月、迅速診断システムが保険適用となりました。すでに欧州では販売しており、今後も乳がん患者さんの負担軽減を目指して、世界での普及に努めます。

品質と安全性に関するお客様からの情報を社内で共有化しています

シスメックス(株)は、製品の品質と安全性に関する情報を管理する専門部門「安全性情報部」を設置しています。

お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの社内部門と共有することで、品質の改善や新製品の開発などに活かしています。

●製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



さを検討しています。

2008年度は、検査装置を使用するお客様について、検査手順やパソコン操作などの作業動作について調査・分析し、検査業務の標準モデルを作成しました。今後も、継続して研究を繰り返し、お客様の立場に立った使いやすさを追求した製品開発を推進していきます。

製品の安定供給

遺伝子組み換え技術で、生物由来原料を用いた試薬の代替品を製品化しました

現在、臨床検査では生物を原材料とした試薬製品が多く使用されています。生物原材料は安定的に確保することが難しく、また、性能維持の点から代替品に変更するのが難しいのが現状です。

2008年度、シスメックス(株)は遺伝子組み換え技術を利用して、従来ウシの臓器を原料にしていた試薬の代替品を世界で初めて開発しました。今後も、安定供給、品質確保、生物種保全などに配慮しながら研究開発を推進していきます。



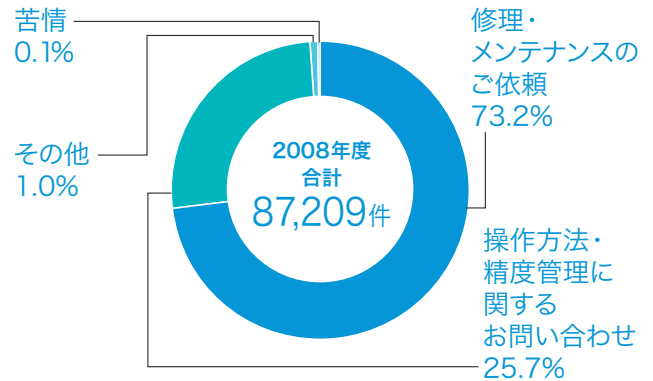
試薬の研究開発

ユーザビリティの向上

検査装置のインターフェイスについて工学的な観点から基礎研究を推進しています

シスメックスは2007年度から、検査装置のユーザビリティ(使いやすさ)を向上させるための基礎研究を推進しています。ユーザビリティを「人間中心設計」などの設計技法を用いて工学的に捉え、検査装置のインターフェイスがいかにあるべ

カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



サービス&サポート

お問い合わせに迅速・確実にお応えすることで、正確な検査をサポートしています

シスメックス(株)では、日本において、お客様のための電話相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任のスタッフが24時間365日体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。

同センターでは、お客さまからのお問い合わせ・ご要望に迅速かつきめ細かくお応えするために、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにしています。また、全国の支店、営業所の技術サービス員と緊密に連携し、メンテナンスが必要な場合は、直ちにお客様のもとに派遣できるようにしています。

シスメックスが事業を展開する海外4地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国、アジア・パシフィック)においても、それぞれの統括会社にお客様相談窓口を設置しています。

お客様の精度管理をさまざまな方法でサポートしています

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために装置の精度を日々管理しています。一般には「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を前日の測定結果や「標準値(コントロールを適切に管理された装置で測定した値)」と比較することによって、検査装置の状態をチェックします。

シスメックス(株)は、このコントロールや標準値を提供することでお客様の精度管理をサポートしています。

さらに、お客さまのもとにある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶ「シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ(SNCS)」を構築して

います。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様のもとにある装置から送られるコントロールの測定値を受信し、分析結果を送信するサービスも提供しています。検査装置の状態をリアルタイムに把握し、お客様が気付く前に装置のトラブルを察知し、連絡することで検査装置の精度管理をサポートしています。

このSNCSは、海外でも展開しており、世界中で多くのお客様にご利用いただいています。

アジアの国々で自動血液検査の普及や標準化を支援しています

アジアの一部の国では医療インフラの整備が進んでおらず、まだ顕微鏡を使って血液検査を実施している地域もあります。シスメックスは、中国やモンゴル、タイ、フィリピンなどにおいて、政府と協力しながら、自動血液検査の普及や標準化を推進しています。

国の血液検査の基準となる装置を設置し、全国の病院で測定したデータの信頼性を向上させるためのしくみ「外部精度管理」をサポートしています。



モンゴルの病院における当社製品 XS-1000iでの血液検査風景

オンライン精度管理サービスに登録いただいている検査装置の世界累計

10,000台突破

2008年度には、オンラインで精度管理をサポートする「シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ(SNCS)」と「e-QAPI」が利用できる血液検査装置と生化学検査装置の販売台数が、全世界累計で10,000台を超えました。

外部顧客満足度調査結果 (アメリカ)

9年連続 No.1

2008年、アメリカの調査会社IMV社の「血球分析装置ユーザー調査」において、シスメックスアメリカが装置の性能やサービス品質を高く評価され、9年連続で顧客満足度No.1を獲得しました。

学術情報の発信

世界の医療従事者に最新情報を発信しています

シスメックスは、世界各地で医師や看護師、臨床検査技師などの医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会を開催しています。

2008年度には、そのうちの一つ、日本で毎年開催してきた「シスメックス血液学セミナー」を、「シスメックス学術セミナー」に改称し、テーマの領域を「血液学」から「検体検査における疾患マネジメント」へと広げました。7月に「疾患マネジメントからみた医科学と検査医学の接点—骨髄の医科学—」をテーマに開催し、約800名に参加いただきました。

また、臨床医学と検査に関する学術情報誌「シスメックスジャーナル・インターナショナル」を毎年発行し、世界で約18,000名の医療従事者の方々に情報発信しています。

偽装試薬への対策

患者さんの検査結果の信頼性を損なう可能性のある偽装試薬を排除

シスメックスでは、正確な検査結果を確保するために、医療機関のお客様には純正の装置と試薬のセットで使用いただくようお願いしています。しかし近年、シスメックス製試薬を偽装した試薬が中国やフィリピン、インドネシアなどで流通しているのが発見されています。これら偽装試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が確保できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性もあります。

シスメックスは、こうした偽装試薬について現地の新聞に告知広告を掲載するなど注意喚起に努めています。また、各国の行政への協力や、必要に応じて司法への告発などに取り組んでいます。



学術セミナー(マレーシア)



学術セミナー(中国)



ライフサイエンスセミナー(日本)

世界で最も働きがいのある会社を目指して

シスメックスは、従業員一人ひとりが夢を持って生き生きと働ける「世界で最も働きがいのある会社」を目指しています。従業員が各分野で活躍できるよう、能力開発と働きがいの向上のための人材育成プログラムを推進しています。また、多様な人材が安心して働くことができるような職場環境の整備に努めています。

人事に関する基本的な考え方

能力・成果主義を

人事評価の基本方針としています

シスメックス(株)の人事評価は、「能力・成果主義」を基本方針としています。

評価制度として、目標に対する達成度やプロセスを評価する「目標管理制度」を導入し、年功、学歴、性別などを評価の対象としないことで公平性を確保しています。また、公正さを確保するために、職層・職務ごとに期待される能力・成果の基準や、目標設定から評価にいたるまでのすべてのプロセスを従業員に開示しています。

さらにこの制度は、本人と上司が十分に話し合ったうえで目標を設定し、また、評価後も面談することから、納得性の確保にもつながっています。

人材育成

グローバルな人材や、変革をリードできる人材の育成プログラムを充実させています

シスメックス(株)は、従業員の能力開発と働きがいの向上を目的に、多彩な教育研修を実施しています。

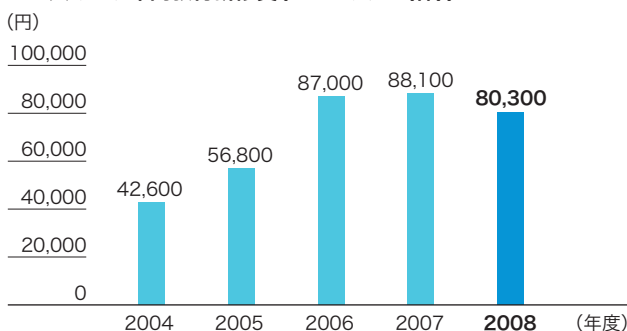
グローバルな人材を育成するために、海外現地法人で実務を経験する「現地法人派遣研修」や大学などの専門機関で研究活動に従事する「プロフェッショナル人材育成研修」を実施しています。

また、戦略的思考、マーケティング、ファイナンスなどについて学ぶ「シスメックスビジネススクール」など、変革をリードできる人材を育成するための研修も実施しています。

● 全社研修体系(シスメックス(株))

区分	名称	対象者
階層別研修	役職者研修	係長以上の役職者
	3年目研修	入社3年目社員
	新入社員研修	新入社員
選拔型人材育成	シスメックスビジネススクール	社員選抜
グローバル化研修	海外現地法人派遣研修	社員選抜
	プロフェッショナル人材育成研修	社員選抜
自己啓発	語学研修	社員全員
	通信教育	社員全員
専門知識教育	部門別教育	部門社員

● 一人あたり年間教育研修費(シスメックス(株))

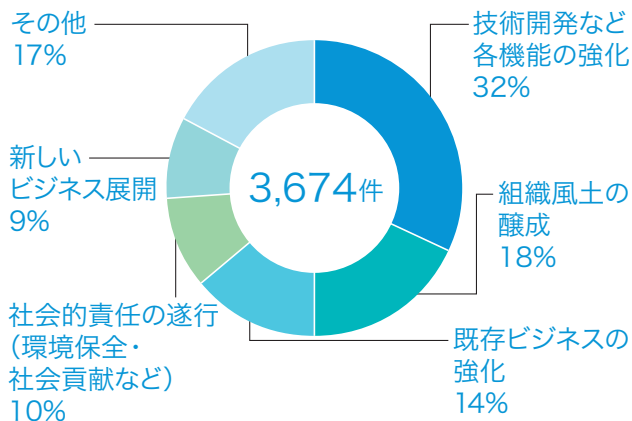


アメリカでも、従業員に多様な教育プログラムを提供しています

シスメックスアメリカ(従業員数約450名)では、従業員のキャリア開発を目的として「ミニMBAプログラム」「e-University(150以上のeラーニングプログラム)」などさまざまな教育プログラムを実施しています。従業員は、これらのプログラムを通じて、マネジメント能力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力、文書作成スキルなどを磨いています。また、学位を取得できるオンラインコースも設けています。

社内調査によれば、従業員の90%以上がこれらの教育プログラムに満足しています。

「シスメックスが魅力的であり続けるために
実践すべきことは何か」～VQセッションでの従業員の提案の内訳



VQファイナルセッション

従業員の声を経営に活かす

従業員から、企業理念「Sysmex Way」の実践に向けたアイデアを募集しました

2008年度、シスメックスは創立40周年を記念して「VQ (バリュー・クエスト) セッション」と題した従業員向けプログラムを約1年に渡って開催しました。事業活動や社会貢献活動を通じて企業理念Sysmex Wayをどのように実践していくか、従業員からアイデアを募り、議論し、まとめ、実行に移しています。

まず2008年4月に、イントラネットで社長から全従業員に向けて、「次の10年もシスメックスがステークホルダーにとって魅力ある会社であり続けるために、あなた、あなたの部門、シスメックスは、Sysmex Wayの具体的な実践として何をすればよいと思いますか?」という問いかけを発信しました。これに対して、世界中のグループ従業員から約3,700件のアイデアが集まりました。

次に、個々のアイデアについて従業員の間で質疑応答を繰り返し、提案として発展させた後、日本のシスメックス(株)と、アメリカ、ヨーロッパ、中国、アジア・パシフィックの各統括会社で、合計31のチームを結成しました。チームは5～10人で構成され、提案に磨きをかけるためにセッションを重ねました。

10月には「ファイナルセッション」と題して、これらのチームの代表者が日本に集い、それぞれのアイデアを経営層にプレゼンテーションしました。特に優れた提案をしたチームには、経営層から「Sysmex Way賞」が贈られ、承認を受けたこれらの提案は、詳細な実行計画が策定され、事業活動の中で着実に実行に移しています。

今後も、この提案活動を継続して実施し、従業員一人ひとりがSysmex Wayを考える機会を増やすことで、シスメックスグループがステークホルダーの皆様にとってさらに魅力的な企業となるよう取り組んでいきます。

● Sysmex Way賞を受賞した5つの提案

テーマ	タイトル	提案地域
既存ビジネス強化	SNCS(シスメックスネットワークコミュニケーションシステムズ)の拡張	アメリカ
	古いコアビジネスの革新	ヨーロッパ
組織風土醸成	チームワークとコミュニケーションの強化	アジア・パシフィック
社会的責任の遂行	世界の子供たちに笑顔を	日本
	もう一步 ～中国における医療健康分野における社会貢献策～	中国

社会貢献に関する提案をすぐに実行しました

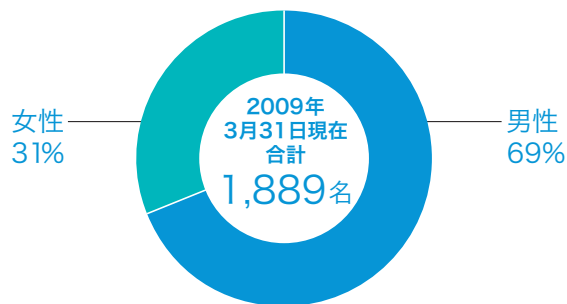
社会貢献に関する提案「世界の子供たちに笑顔を」の一環として、2009年2月、神戸市立櫛谷中学校で、1年生を対象に、シスメックス(株)の従業員が出張授業を実施しました。

まずシスメックスの研究開発活動について紹介し、その後「血液のはたらき」や「健康であることの大切さ」などについて説明しました。また、採血せずに血液中のヘモグロビンの量を測定できる当社の製品を使って自分の血液中のヘモグロビンを測定してもらいました。生徒の皆さんには新鮮な体験だったようで、好評をいただきました。

こうした出張授業は2009年度も継続して実施する予定です。



出張授業風景



注) 集計範囲は、シスメックス(株)の社員、嘱託、パートタイマー。

仕事と家庭の両立支援

企業内託児所を開設しました

日本では高齢化と人口減少が懸念されており、企業にも次世代育成を支援することが求められています。また、従業員が出産や育児を理由にキャリアを中断することなく、安心して働き続けられる環境を整備することも大切です。

そこでシスメックス(株)は、2009年4月、テクノパーク内に託児所「シスメックスキッズパーク」を設立しました。0歳児から小学校就学前までの乳幼児を預けることができます。



企業内託児所「シスメックスキッズパーク」での育児風景

育児のための休業・勤務時間短縮制度を見直しました

シスメックス(株)は2008年5月、子供にとって大切な時期に、親子ができるだけ長く一緒に過ごせるよう、育児のための休業・勤務時間短縮制度を見直し、対象時期を延長しました。

2009年3月末現在、39名がこの制度を利用しています。

● 育児のための休業期間・勤務時間短縮制度の見直し

	改定前	改定後
勤務時間短縮	小学校での就学開始期まで	小学校3年の学業を終えるまで
休業期間	満1歳に達するまで	満2歳に達するまで

労使の協調

協力して働きやすい職場づくりに取り組んでいます

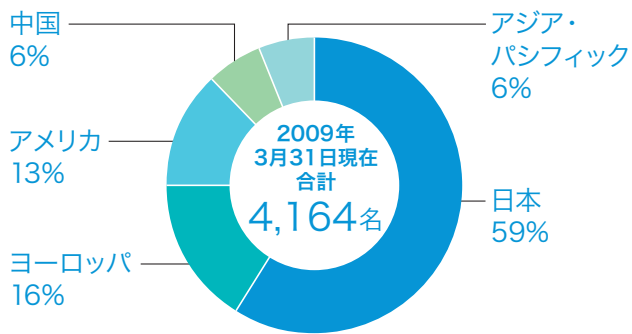
シスメックス(株)の労働組合であるシスメックスユニオンには、正社員のうち、役職者や管理部門の一部を除く全員が加入しています(正社員の約72%)。

当社とシスメックスユニオンは、ワークライフバランスを確保するための制度整備などに協力して取り組んでいます。

● 制度改定の実績(過去3年間)

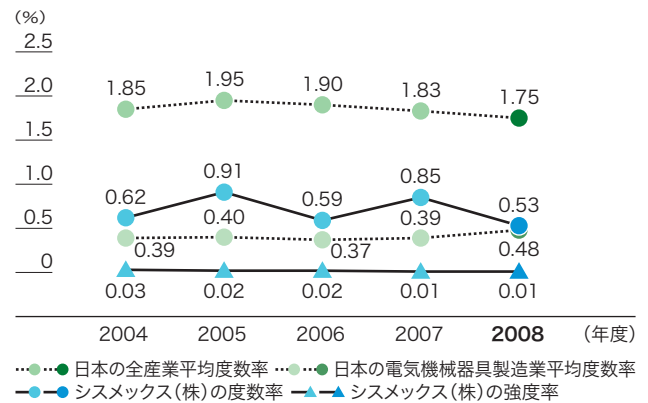
- 2006年度: 医療費補助の拡充、失効済積立有給休暇の拡大
- 2007年度: 寮・社宅規程の見直し
- 2008年度: 育児休業規程の見直し 他

地域別従業員内訳(グループ全体)



注) 集計範囲は、グループの役員、社員、嘱託、パートタイマー。在籍者ベース。

労働災害度数率/強度率(シスメックス(株))



注) 度数率とは、延べ労働100万時間あたりの死傷者数の割合。
強度率とは、延べ労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合。

健康と安全への配慮

身心の健康維持に努めています

シスメックス(株)は、2009年度から、健康診断について、希望者は人間ドックが受診できるように変更しました。健康診断の基本的な項目に加えて、がん検査など希望する項目を選んで受診できるようにしました。

メンタルヘルスについては、全事業所に相談窓口を設け、精神科の産業医、保健師、カウンセラーと従業員が個別に面談できる体制を整えています。また、イントラネットを利用した「ココロの健康診断」を開始し、早期発見の機会や相談体制を充実させました。

シスメックスヨーロッパでは、トレーニング室を設置しています

シスメックスヨーロッパでは、従業員の健康維持のために、オフィスに各種の運動機器を用意したトレーニング室を設置しています。トレーニング室では、プロのトレーナーから、機材の使用方法や、効果的なトレーニング方法についてアドバイスを受けることができます。



シスメックスヨーロッパのオフィス内トレーニングルーム

安全衛生委員会を事業所ごとに設置し、事故や緊急事態に備えています

シスメックス(株)は、従業員の安全と健康を確保するための指針として「安全衛生規程」を定めるとともに、各事業所に安全衛生委員会を設置し、安心して働ける職場づくりに努めています。事故時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などについて、教育を実施しています。

また、地震や火災などに備えて、地元の消防署と連携しながら避難訓練や消火訓練を実施しています。

2008年度 外部からの評価

シスメックス(株)が「こうべ男女いきいき事業所」として認定されました

シスメックス(株)は、神戸市から「こうべ男女いきいき事業所」に認定されました。

企業内託児所や育児のための休業・勤務時間短縮制度を設け、男女がともに働きやすい職場づくりを推進していることが評価されました。

シスメックスアメリカが「荣誉ある企業」の1社に選ばれました

シスメックスアメリカは、職場環境の改善に向けた取り組みなどが評価され、NPO「Companies That Care」が選定する「荣誉ある企業リスト」に選ばれました。



WIN-WINの関係を目指して

シスメックスは、調達先やアライアンスパートナー、販売代理店などの取引先との信頼関係を大切にしています。長期にわたってお互いの強みを発揮しながら、ともに成長し、発展していけるWIN-WINの関係を目指しています。

調達に関する基本的な考え方

公正かつ透明性の高い取引の維持に努めています

シスメックスは、調達先とともに成長し、発展していくことを目指して、公正かつ透明性の高い取引を維持し、信頼関係の構築に努めています。

調達方針

- 優れた製品の提供を通じた医療への貢献
- お取引先との信頼関係に基づく相互成長・発展
 - ・ より良いパートナーシップ
 - ・ 公正かつ透明性の高い購買取引
 - ・ 関係法令の遵守と機密保持
 - ・ 環境への配慮

調達先との連携

「創立40周年記念 シスメックスサプライヤー会」を開催しました

2008年度は、「創立40周年記念 シスメックスサプライヤー会」を開催しました。国内の調達先から100名以上にご来社いただき、新研究開発拠点テクノパークの見学、事業活動や研究開発体制に関する説明会、社外講師による特別講演会などを実施しました。

説明会では、シスメックスを取り巻く経営環境やポスト40周年に向けた研究開発コンセプトなどをご説明し、これからもパートナーとして、ともに成長していくための関係強化に努めました。

協力して調達部品・原材料の品質向上に取り組んでいます

お客様に対して確かな品質の製品を安定的に提供するために、シスメックスと調達先は協力して調達部品・原材料の品質向上に取り組んでいます。

調達先に対して、品質マネジメントシステムを自己診断できるチェックリストを提供するとともに、シスメックスの調達部門、品質管理部門のメンバーが調達先の工場を訪問し、現場の品質改善に協力して取り組んでいます。

技術開発面でのパートナーシップ強化に努めています

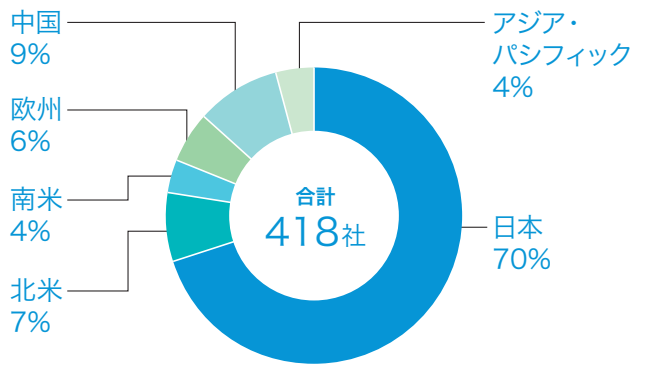
シスメックス(株)では、調達先との技術開発面でのパートナーシップを強化するために、調達先に独自の技術や製品をプレゼンテーションしていただく「技術セミナー」を開催しています。

2008年度は光学系部品や免疫関連試薬などの調達先を招いて計5回開催しました。



シスメックスサプライヤー会

調達先数※の地域別割合



※ 製品用部品・原材料の調達先の数。

アライアンスパートナーとの協力

世界のアライアンスパートナーとのコミュニケーションの強化を図っています

シスメックスは、世界中のお客様の多様なニーズに応えるために、世界各地のアライアンスパートナーと提携し、互いの強みを活かして販売・サービスや研究開発の充実を図っています。

コミュニケーションを強化するために、2008年度は、海外のアライアンス先、代理店、医療機関から200名を越える方々に日本に来社いただき、経営方針や研究開発コンセプトなどを説明するとともに、シスメックスの事業拠点や日本の病院・検査センターなどを見学いただきました。

● 主なアライアンスパートナー

企業名	本社	提携内容
Roche	スイス	血液分析装置・尿製品の供給
Siemens	ドイツ	血液凝固製品の相互供給、販売・サービス
IDEXX	米国	動物用血球分析装置の供給
bioMérieux	フランス	ピオメリュー日本法人への出資、尿検査製品の供給、日本での販売・サービス
Affymetrix	米国	診断用DNAチップの共同研究、同社の診断用製品の日本・アジアでの販売
Epigenomics	ドイツ	採血検査による大腸がんの早期発見技術の共同研究
Oncolys Bio Pharma	日本	新たな癌の体外診断(細胞診断)技術の共同開発
Quantachrome Instruments	米国	同社の比表面積・細孔分析計測用製品の日本での販売・サービス

販売代理店との良好な関係づくり

コンプライアンスを徹底しています

シスメックスは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するうえで、基本となるコンプライアンスを徹底しています。

シスメックス(株)は、販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位濫用の禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定めています。2008年度には、腐敗防止を徹底するために、「プロモーションコード規程」を制定するとともに、全社的な組織として「公正な取引推進委員会」を設置しました。さらに、営業部門にコンプライアンス推進の専門部署を設置しました。また、支店や営業所の従業員などを対象として「公正な取引」「公務員との適切な関係」などをテーマとする教育を実施しました。

一方で、販売代理店の皆様に対しても、新製品発売時に開催する「製品説明会」などでシスメックスのコンプライアンスに関する方針や活動を説明し、コンプライアンスの重要性を認識いただいています。



中南米地域販売代理店会議(日本)

積極的な情報開示と対話を重視

シスメックスは、利益還元と成長投資のバランスを考慮しながら安定的な成長を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、当社の経営と事業運営についてご理解を深めていただくために、積極的な情報開示に努めるとともに、充実した直接対話の機会を設けています。

配当に関する基本的な考え方

安定配当を目指しています

継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏づけられた成果を配分するという基本方針のもと、連結業績と配当性向を勘案し、配当を実施しています。

また、内部留保金は、将来にわたって高成長を持続させるために研究開発や設備投資に有効投資しています。なお2008年度については、1株につき50円の配当を実施しました。

情報開示

積極的な開示に努めています

株主・投資家の皆様への説明責任を果たすために、シスメックスは、公平さ、迅速さ、正確さ、そしてわかりやすさに留意した情報開示に努めています。

シスメックスを一層深く理解し、支持していただくためには、業績や経営方針、事業戦略、財務データなどについて積極的に情報を開示する必要があると考えています。このような考えに基づいて、シスメックスでは証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもちろんのこと、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報も積極的に開示するよう努めています。

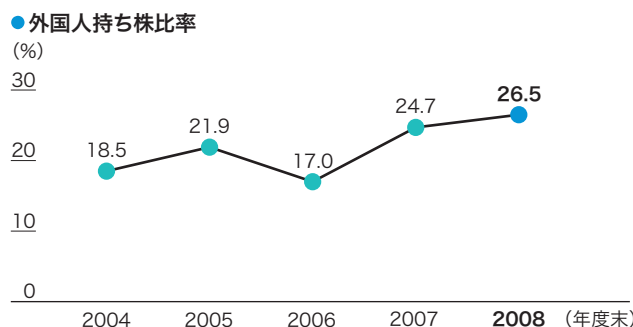
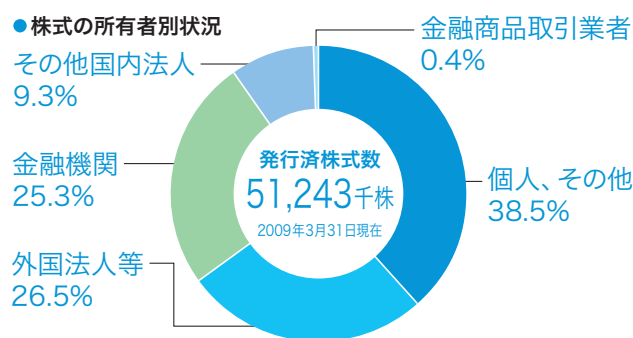
また、重大な問題が発生した場合に情報開示の可否や方法について審議する機関として、「情報開示委員会」を設置しています。

株主総会

開かれた株主総会を目指しています

シスメックスの株主総会は、他社の総会が集中する時期をさけて開催し、できるだけ多くの株主の皆様に参加していただけるようにしています。総会終了後には、シスメックスの事業・戦略について理解を深めていただくために、年度のトピックス映像の上映や製品展示会、役員との懇談会を実施しています。

一方、できるだけ多くの株主の皆様により議決権を行使いただくための工夫も講じています。総会に参加することが難しい方のために、郵送やインターネットでも議決権が行使できます。また、海外在住の方向けに、英文版召集通知を送付するとともに、総会後には決議通知も送付しています。



配当性向(2008年度実績)(連結)

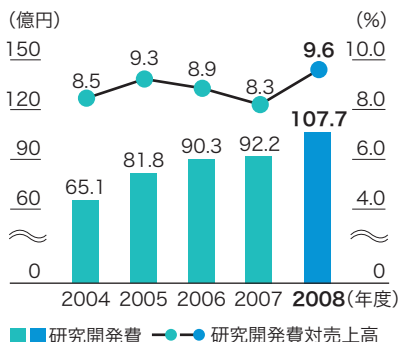
31.9%

配当金(2002年度～2008年度)

7期連続増配

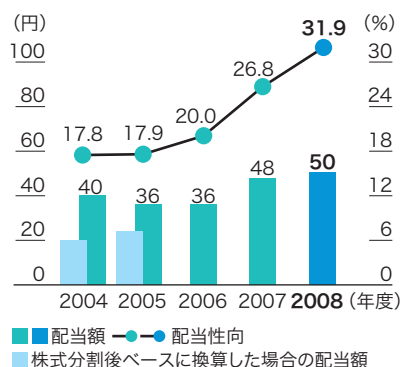
注) 2009年度の配当は据え置きを予想しています。

研究開発費／ 研究開発費対売上高比率



配当性向／1株当たり配当金(連結)

注) 2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



IR活動

直接対話を重視しています

シスメックスは、投資家の皆様と直接対話する機会を多数設け、経営方針や事業戦略などをご説明しています。

機関投資家・アナリスト向けに、国内・海外で年間260件を超える個別ミーティングを実施するとともに、個人投資家向けに証券会社主催の資産管理フェアなどにも積極的に参加しています。

2008年10月には、アナリスト・投資家の皆様を対象とした新研究開発拠点テクノパークの見学会を開催しました。研究開発のプロセスやさまざまな設備をご紹介します、シスメックスの研究開発戦略に対するご理解を深めていただきました。

● 投資家の皆様との主な直接対話機会

2008年	5月	決算説明会	東京、大阪
	6月	定時株主総会	神戸
	6月	欧州IR活動	欧州
	7月	米国IR活動	米国
	10月	アナリスト／投資家向けテクノパーク見学会	神戸
	11月	中間決算説明会	東京、大阪
	12月	証券会社主催資産管理フェア	東京
	12月	アジアIR活動	アジア
2009年	1月	技術説明会	東京
	2月	証券会社主催資産管理フェア	大阪

投資家・マスコミ向けの「技術説明会」を開催しています

株主・投資家の皆様やマスコミ関係者を招いてシスメックスグループの研究開発戦略や新規技術などを紹介する「技術説明会」を毎年開催しています。

2009年1月には東京で開催し、約100名の方々に参加いただき、研究開発の戦略や進捗状況について説明しました。



技術説明会

SRI(社会的責任投資)

SRI指標「FTSE4Good Global Index」に採用されました

シスメックス(株)は2008年9月、代表的な社会的責任投資(SRI: Social Responsibility Investment)指標の一つ「FTSE4Good Global Index[※]」に採用されました。

※ FTSE4Good Global Index: 英フィナンシャル・タイムズ紙とロンドン証券取引所の共同出資会社、英国FTSE社が開発し、管理しているSRI指標。主な審査項目は、「環境サステナビリティ」「ステークホルダー・リレーションシップ」「人権」「サプライチェーンにおける労働基準」「汚職・贈賄の防止」。



健康を支援する活動を世界各地で展開

シスメックスは、日本をはじめとして、事業拠点を置く世界各地で、医療、スポーツなどの健康分野をはじめとして、多彩な企業市民活動に取り組んでいます。

医療分野

神戸大学大学院に寄附講座を開設しています

シスメックス(株)は、2004年から神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学講座」を開設しています。同講座は、自己免疫疾患の科学的根拠に基づいた検査診断法の確立を目指しています。

2009年2月には、新研究開発拠点「テクノパーク」において同講座の4周年記念セミナーを開催しました。セミナーには、医療機関関係者や神戸大学・神戸市の関係者などのお客様にご参加いただき、また、当社からは社長、役員をはじめ多くの研究開発者が出席しました。

4周年記念セミナー概要

- ・立証検査医学講座 2008年度研究実績発表
- ・講演「検査法の臨床的有用性評価の尺度はどうあるべきか」
- ・講演「神戸大学大学院医学研究科・医学部の現状と将来」
- ・報告「DNAチップが開く新しい検査」

「神戸医療産業都市構想」に参画しています

「神戸医療産業都市構想」とは、産官学が協力して神戸市への医療関連産業の集積を図るプロジェクトで、スタートから10年目を迎えました。

シスメックス(株)は2007年1月、このプロジェクトの中心的な拠点の一つである神戸臨床研究情報センター内に「シスメックス浅野研究室」を開設しました。以降、同研究室では、血液学の第一人者である浅野茂隆教授の指導のもと、骨髄移植などの細胞療法の効果・安全性の向上を目指して技術開発に取り組んでいます。

JICAの研修生を受け入れ、発展途上国における医療の向上に貢献しています

シスメックス(株)は毎年、JICA(国際協力機構)を通じ、発展途上国の医療従事者を受け入れて研修を実施しています。

2009年2月には、中央アジアから国立医療センターの医療機器エンジニアなど医療に携わる8名の方を受け入れました。加古川工場やカスタマーサポート拠点「ソリューションセンター」を見学していただくとともに、12日間にわたって、血球計数装置の原理や使用方法、メンテナンス技術などに関する研修を実施しました。

2008年度には、この他、計15名の方々に研修を受けていただきました。



JICA研修生加古川工場見学

科学技術分野

財団を通じて電子計測技術に対する研究助成を実施しています

シスメックス(株)は、1984年に当社の創業者、故中谷太郎などの基金拠出によって設立された中谷電子計測技術振興財団を通じて電子計測技術を対象とした研究を助成しています。

2008年度には2,400万円の研究助成を実施しました。



谷川真理ハーフマラソンに協賛



北京オリンピック陸上銅メダリスト
朝原宣治さん

教育分野

モスクワ大学の学生を受け入れ、 就業体験のお手伝いをしました

シスメックス(株)は、就業体験を希望する学生にインターンシッププログラムを実施しています。

2007年から2年間に渡り、モスクワ大学の学生を2名受け入れ、国際ビジネスやマーケティングなどの調査・分析の実務を経験していただきました。また、最後には、自分たちの成果を経営トップや従業員にプレゼンテーションしていただきました。

休日には観光に出かけ、日本語や日本文化に触れることで、積極的に日本を理解していただきました。



経営トップへのプレゼンテーション

競泳金メダリスト北島康介さんを育てた平井伯昌コーチと北京オリンピック陸上400mリレー銅メダリストの朝原宣治さんをお招きし、講演を実施しました。また、「北京オリンピックをふりかえって ～トップアスリートに学ぶコンディショニング～」と題した討論会も開催しました。

当日は大盛況で、550名の方々に聴講いただきました。



スポーツサイエンスセミナー

「谷川真理ハーフマラソン」に協賛しています

シスメックス(株)は、2004年から毎年「谷川真理ハーフマラソン」に協賛しています。

2009年1月には東京で開催され、10,000人以上の市民ランナーが参加し、日本最大規模のハーフマラソン大会となりました。

スポーツ分野

「スポーツと栄養を科学する」セミナーを 開催しています

シスメックス(株)は、2002年度から毎年、「スポーツと栄養を科学する」をテーマとする「シスメックススポーツサイエンスセミナー」を開催しています。

2008年12月に神戸で開催した第7回のセミナーでは、栄養学の最前線で活躍する講師陣に加え、北京オリンピック

地域社会

テクノパークのオープンを記念して 地域住民の方々をお招きしました

2008年11月、新研究開発拠点「テクノパーク」のオープンを記念して、地域住民の方々をお招きし、「テクノパークフェスタ」と題したイベントを開催しました。

テクノパークツアーやお茶会、製品展示コーナー、ちびっこマラソン、ウォークラリー、キッズコーナーなどの行事を催し、イベント全体で550名を超える地域住民の方々にご参加いただきました。

日本で子供職場見学会を開催しています

シスメックス(株)では、毎年、カスタマーサポート拠点「ソリューションセンター」において、従業員の子供たちに親の職場を見学してもらう「子供職場見学会」を開催しています。

2008年は5家族8名の子どもたちが参加し、ショールームや会議室、オフィスなどを見学してもらいました。



親子でショールーム見学



テクノパークフェスタ

シンガポールで会社見学ツアーを開催しています

シスメックスアジアパシフィックは、毎年、シンガポール専門技術学校の最終学年生を会社見学ツアーに招待しています。

2009年2月には、50人以上の学生を受け入れ、最新技術に関する講義を聴いていただくとともに、検査機器の操作を体験してもらいました。



見学に訪れた学生たち

アメリカで「リレー・フォー・ライフ」に参加しました

シスメックスアメリカは、2008年6月、がんと闘う人々を支援するためのイベント「リレー・フォー・ライフ」に参加しました。これは、がんと闘う人々やその家族を励ましたり、がんで亡くなった人を偲び、24時間、交代で歩きながらたすきをつなぐイベントで、毎年、世界各地で開催されています。

シスメックスアメリカは、アメリカのマンデラインでこのイベントに参加するとともに、約3,000ドルを寄付しました。



リレー・フォー・ライフ



テクノパークフェスタ ちびっこマラソン



シスメックス上海から中国四川省大地震被災地に贈った救援物資

アメリカで地元の高校生を支援しています

シスメックスアメリカは、従業員のボランティア活動などを企業に促すことを目的として設立されたNPO「カンパニーズ・ザット・ケア」の活動の一つ「エイム・ハイ・アーバン・メンタリング・イニシアティブ」に参加しています。

同社の従業員は、地元高校生のアドバイザーを務めたり、経済的な支援を継続して実施しています。

ドイツでチャリティジョギングイベントに参加しました

シスメックスヨーロッパは、ドイツの地元銀行が主催するジョギングイベントに2005年から、毎年参加しています。

このイベントでは、1人が1キロメートル走るごとに1ユーロが積み立てられ、そのお金がスポーツに取り組む子供たちを援助するために使われます。2008年には、同社から25人の従業員が参加しました。



チャリティージョギングに参加

災害被災地支援

中国四川省大地震の被災地復旧を支援しました

2008年5月に発生した中国四川省大地震において、シスメックス上海は、被災地にある病院を訪問し、検査装置の点検や修理を行いました。また、現地の従業員が協力して、衣料品や食料などの救援物資を寄付しました。

さらに、シスメックスからは、被災地の病院に対し、検査機器や試薬を寄贈しました。

この支援活動が評価され、大学病院から感謝状をいただきました。



四川大学病院からの感謝状

ブラジルで洪水被害にあった地域の復旧を支援しました

シスメックスブラジルは2008年12月、河川が氾濫し、洪水の被害を受けたサンタカラリーナ州の地域に、復旧支援のための寄付金を贈りました。



洪水被害地域の状況

地球環境との調和を目指して

シスメックスは、ヘルスケア分野における「環境先進企業」を目指し、製品の設計から、開発、調達、生産、物流、販売、サービス、製品使用に至るまでの各段階における環境負荷低減に取り組み、地球環境との調和を追求しています。

環境マネジメント

シスメックス環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

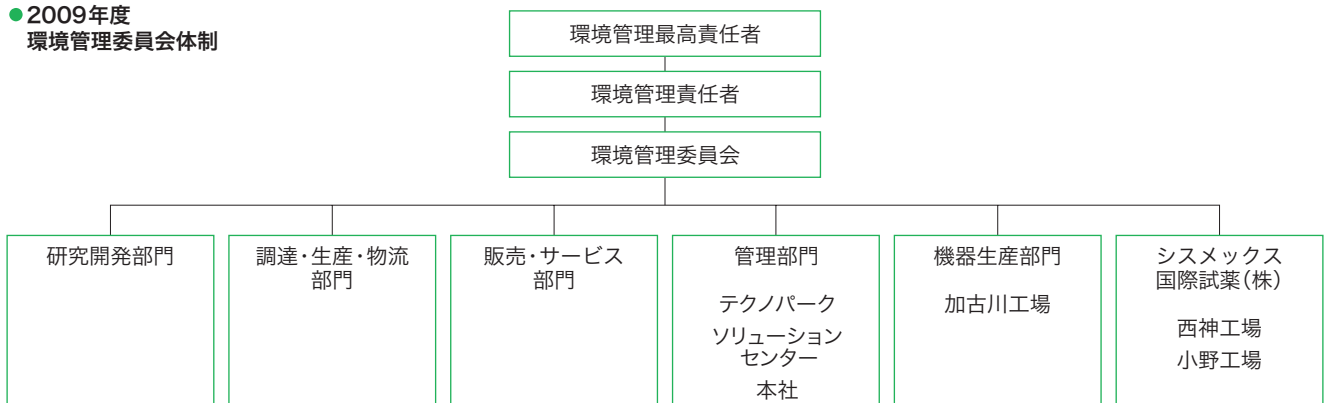
行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月7日
シスメックス株式会社
代表取締役社長 家次 恒

注)シスメックス環境方針は2000年3月に制定、2009年5月改定。

●2009年度 環境管理委員会体制



国内 9/9 海外 2/7

シスメックスの主要な開発拠点、物流拠点、生産工場、本社等国内9拠点、海外7拠点のうち、環境マネジメントシステムの国際的な規格であるISO14001の認証を取得している拠点数(2009年3月末現在)。



新研究開発拠点「テクノパーク」のビオトープ

環境方針

2009年5月、新しい環境方針を制定しました

新環境方針では、医療・ヘルスケアの分野で事業展開するグローバル企業として、環境保全活動の目的を、世界の人々が健康で暮らすことができる持続可能な社会の実現に貢献することと明記しています。

新しい環境方針のもと、製品ライフサイクルでの環境負荷低減を重点課題と位置付け、製品の設計から開発・調達・生産・物流・製品使用に至るまでの各段階における環境負荷を低減するための活動を推進していきます。

環境マネジメント体制

製品ライフサイクルの段階ごとに

環境活動を推進する体制に改めました

シスメックス(株)では、CSR・環境推進室担当執行役員を「環境管理最高責任者」および「環境管理責任者」に任命するとともに、方針・計画の策定、計画の進捗管理、実績の評価などにあたる「環境管理委員会」を設置しています。

また、2009年度からは、事業活動と環境活動を一体化して取り組めるよう、機能別本部の本部長を環境管理委員会のメンバーとしました。

ISO14001 認証取得

国内主要拠点でISO14001の認証取得を完了、海外拠点の取得を推進しています

シスメックスでは、2000年のシスメックス(株)加古川工場をはじめとして、主要な拠点で環境マネジメントの国際規格ISO14001の認証取得を推進しています。

日本においては、関係会社を含め、開発・生産・物流の主要拠点9拠点をすべての認証取得を完了しました。

海外では、グループ会社の生産工場における認証取得を進めています。現在、ドイツとブラジルの2工場で認証取得を完了しています。

●ISO14001 認証取得一覧

会社名	事業所	取得年
シスメックス(株)	加古川工場	2000年 4月
	テクノパーク	2002年 2月
	本社	2002年 2月
	ソリューションセンター	2005年11月
シスメックス国際試薬(株)	小野工場	2001年 3月
	西神工場	2007年 6月
シスメックス物流(株)	—	2001年 3月
シスメックスメディカ(株)	—	2001年 3月
シスメックスRA(株)	—	2008年 6月
シスメックスヨーロッパ	ノイムンスター工場(ドイツ)	1999年11月
シスメックスブラジル	ブラジル工場(ブラジル)	2006年 5月

環境監査




監査の実効性確保に努めています

シスメックスのISO14001 認証取得拠点では、外部認証機関による審査を毎年受審しています。また、内部環境監査も実施しています。監査では、監査員が自分の所属する事業拠点以外の拠点を監査することで、客観性を高め、実効性を確保しています。







なお、環境関連法規制の違反については、2007年度に引き続き、2008年度も発生しませんでした。

地球環境への責任と行動

事業活動にともなう環境負荷

INPUT				
		単位	2007年度	2008年度
 総エネルギー	電力	千kWh	15,944	16,799
	燃料(都市ガス)	千Nm ³	276.0	222.8
	燃料(LPG)	t	42.0	48.1
	燃料(社用車ガソリン)	kl	48.3	42.8
	燃料(灯油)	kl	43.9	41.6
 総物質投入量	OA紙(オフィスで使用)	t	42.6	41.5
	PRTR※1管理対象化学物質取扱量	t	35.8	38.4
 水資源	上水	m ³	108,330	124,206



OUTPUT				
		単位	2007年度	2008年度
 温室効果ガス排出量		t-CO ₂	9,771	10,134
 化学物質排出量 (PRTR※1管理対象化学物質排出量・移動量)		t	2.6	1.8
 廃棄物量		t	128.6	95.9
 リサイクル量(リサイクル率)		t(%)	497.7(79.5%)	523.9(84.5%)
 廃棄物等総排出量※2		t	626.3	619.9
 排水量		m ³	77,925	98,182

※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Registerの略。有害性のある化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する制度。化学物質把握管理促進法で定められた第一種指定化学物質354物質が対象。

※2 廃棄物等総排出量: 感染性廃棄物、廃棄物、リサイクル量の合計。事業所外へ持ち出した時点での重量。

注1) 対象事業所: 環境負荷データはシスメックス(株)およびシスメックス国際試薬(株)の6つの事業所を対象としています。
シスメックス(株)・・・本社(神戸市)、テクノパーク(神戸市)、ソリューションセンター(神戸市)、加古川工場(兵庫県加古川市)
シスメックス国際試薬(株)・・・西神工場(神戸市)、小野工場(兵庫県小野市)

注2) 対象期間: 2008年4月1日～2009年3月31日

2008年度環境活動計画と実績

機能	取り組みテーマ	2008年度の活動実績
環境 マネジメント	マネジメント強化	<ul style="list-style-type: none"> 今後、製品ライフサイクル(商品企画、設計・開発、調達、生産、物流、販売、サービス)の環境保全について重点的に取り組んでいくため、新たに環境方針を制定。これに合わせ環境管理委員会の推進体制も見直した(2009年4月)。
	環境リスクの整理・防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルを見直し、周知を実施。 加古川工場で排水処理、廃棄物に関する緊急訓練を実施。 小野工場に最新の排水処理設備を3年計画で導入することを決定し、導入を開始。また行政への説明を実施。 西神工場と小野工場で地下設備からの排水漏えいに関して、監視・対策を強化。 研究開発担当者に対し、世界的な環境規制の動向について教育を実施。
製品開発	RoHS指令※1への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 体外診断装置への規制発効に先行して新製品のRoHS指令※1対応を継続実施。
	REACH規則※2への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームを発足し、規制対象物質の使用状況調査を実施。 規制対象となっている物質について、代替物質への変更を継続実施中。 設計における環境影響物質の使用制限について規定を制定。
	リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> WEEE指令への対応として、機器製品の材質・重量の調査を継続実施。 試薬製品について、樹脂材料を用いた容器および包装材のリサイクル標示基準を制定、基準に基づいた設計を継続実施。
	ヒト及び動物由来物質に替わる製品原料の開発	<ul style="list-style-type: none"> 動物由来の原材料から、カイコから取れるたんぱく質を原料とするリコンビナントに切り替えた血液凝固検査用試薬「トロンボチェックTTOリコンビナント」を開発・発売。
	省エネルギー・省資源化	<ul style="list-style-type: none"> 製品における消費電力の削減、軽量化、排出される廃液量の低減の目標を掲げ、設計開発を継続実施。 —主力製品の消費電力について、対2004年度比20%以上を削減。 —主力製品の重量について、対2004年度比15%以上を削減。 —主力製品の排出する廃液量について、対2004年度比15%以上を削減。 機器製品の設計変更により、金属・非金属・樹脂の各材料の使用量削減を継続実施。
生産	工場ゼロエミッションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 3工場でゼロエミッションを推進。リサイクル率は98.5%で、前年比+7ポイント。(加古川工場100.0%、西神工場99.6%、小野工場95.2%を達成。) 西神工場と小野工場で、廃棄物総排出量の低減に向け、業務の改善や効率化、廃棄物の分別を継続推進。
	化学物質管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 小野工場で、製造工程の効率化などによってPRTTR対象物質を約20%削減。 加古川工場で、化学物質の取り扱いについて模擬訓練を継続実施。
調達	グリーン調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準をグループ会社(シスメックスRA)に適用拡大を完了。
	サプライヤーへの環境活動促進	<ul style="list-style-type: none"> 品質・環境を盛り込んだサプライヤー選定・評価基準を制定。 サプライヤーに対し、環境マネジメントシステムの導入支援を継続実施。
物流	CO ₂ 排出状況の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> 天然ガス自動車導入による環境への効果を算定(CO₂年間約0.3tの削減効果)。 工場駐車中の冷蔵車について、アイドリングストップを目的としてスタンバイ電源を敷地内に設置。
	製品梱包材料の軽量化	<ul style="list-style-type: none"> 製品HISCLの梱包材料の軽量化を検討、従来重量に比べ約35%の削減を達成。
	エコ物流活動推進	<ul style="list-style-type: none"> 運送業者に対し、環境に関するアンケートを実施、コミュニケーション強化を推進。 運送業者に対し、エコ物流活動の啓発を継続実施。
販売・サービス	廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処理委託業者への立会検査のしくみを整備。 支店・営業所からの廃棄物の適正処理と量削減に向けた基準を制定。
オフィス・事業所	紙・ごみ・電気の削減	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した「テクノパーク」建設を完了、10月1日オープン。 OA紙の削減に向け、印刷抑制、会議のペーパーレス化、リサイクルなどを推進。 事業所の電力量削減について、消灯や温度の適正管理の徹底、クールビズを推進。
環境 コミュニケーション	環境報告書の発行	<ul style="list-style-type: none"> 2008年版CSR報告書を継続発行。 テクノパーク竣工にともない、従業員が費用を出し合い、敷地内に植樹を実施。 プロジェクト「CO₂一人一日1kg削減活動」を立ち上げ、従業員全員参加の活動を計画・推進。

※1 RoHS指令：EUで販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属(鉛、カドミウム、水銀、六価クロム)と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)の使用全廃を要求したもの。

※2 REACH規則：企業に対して、欧州で生産ないし欧州に輸入する化学物質(1トン/年以上)について、「人類・地球環境への影響についての調査」「欧州化学庁への申請・登録」などを義務付けたもの。

98.5%

前年度比7.1ポイント向上

リサイクル率とは、廃棄物等総排出量に対するリサイクル量の比率。リサイクル量とは、原料としてリサイクルするもの(マテリアルリサイクル)と燃焼熱の利用(サーマルリサイクル)の合計。

生産工場・事業所における環境配慮

地球温暖化防止

拠点の拡張によってCO₂排出量は増加しました

生産工場・事業所からのCO₂排出の90%以上は電力使用によるものです。

2008年度には、クールビズの促進、不在時消灯の徹底などに取り組みましたが、敷地面積を約2倍に拡張した研究開発拠点の電力消費が前年度に比べ約25%増加したことなどによって、国内主要6拠点におけるCO₂排出量は前年度から約3.7%増加しました。

研究開発拠点テクノパークの環境配慮

新研究開発拠点「テクノパーク」には、地球温暖化防止のためのさまざまな工夫を施しています。例えば、敷地の半分以上を緑地、池としています。また、建物は太陽光を採り入れやすくするなど自然エネルギーを利用しており、延べ床面積当たり電力量は約10%削減しています。

こうした点が評価され、テクノパークは、神戸市が実施する建物の環境配慮評価制度「CASBEE神戸」において、最高クラスとなる「Sクラス」の認定を受けました。

●地球温暖化にかかわるエネルギー使用量(6拠点合計)

年度	2004	2005	2006	2007	2008
電力(千kWh)	10,506	13,531	14,639	15,944	16,799
都市ガス(千Nm ³)	187.9	273.3	294.8	276.0	222.8
LPG(t)	65.6	55.1	56.9	42.0	48.1
ガソリン(kl)	41.9	45.1	50.1	48.3	42.8
灯油(kl)	40.7	44.1	47.4	43.9	41.6

注) 集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試薬(株)の西神工場、小野工場

廃棄物削減

ゼロエミッションを目指して 着実に廃棄物を削減しています

加古川工場、西神工場、小野工場の3工場では、2006年度からゼロエミッションを目指し、リサイクルを推進しています。

2008年度は、西神工場において、業者の協力を得て、新たに生物材料輸送用の特殊発泡スチロールのリサイクルを開始しました。これによって西神工場のリサイクル率は99.6%となり、昨年度から15.5ポイント向上しました。

今後は、工場排出物量を削減するとともに、サーマルリサイクル(燃焼熱の利用)からマテリアルリサイクル(原料として再生利用)への切り替えを推進していきます。

感染性物質の管理・処理

厳重な管理と適切な処理を徹底しています

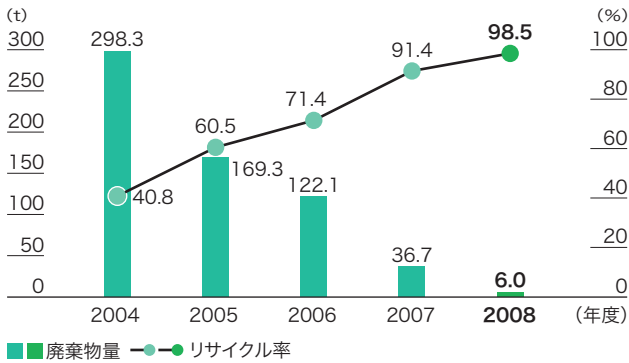
西神工場では製品の原材料として、テクノパークでは研究開発の実験材料として、生物由来の物質を取り扱っています。

これらは病原体感染の危険性もあるため、万が一に備えて業務基準とマニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。



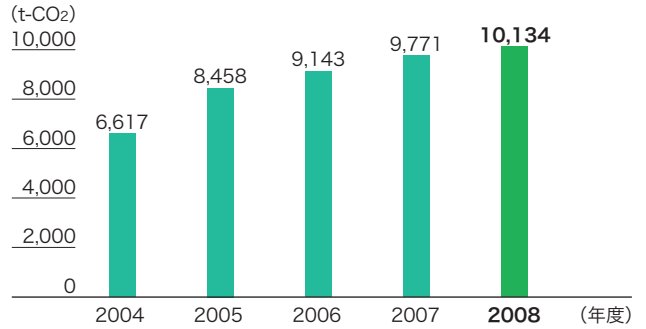
テクノパークでの感染性物質の管理

廃棄物量、リサイクル率(3工場合計)



注) 集計範囲: シスメックス(株)の加古川工場、およびシスメックス国際試業(株)の西神工場、小野工場

CO₂排出量(6拠点合計)



注) 集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試業(株)の西神工場、小野工場

水排出量の削減

研究開発拠点と西神工場の水排出量が増加しました

2008年度の水排出量は前年度から約26%増加しました。研究開発拠点を拡張したこと、西神工場で生産設備の洗浄頻度が増大したことが主な要因です。

今後、研究開発拠点では雨水による緑地管理、西神工場では生産工程の効率化を推進します。

●水排出量(6拠点合計)

年度	2004	2005	2006	2007	2008
水排出量(m ³)	67,938	68,499	72,540	77,925	98,182

注) 集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試業(株)の西神工場、小野工場

オフィスにおける環境配慮

OA紙使用量の削減を進めています

2008年度のOA紙使用量は、前年度比で約2.5%減と、わずかではありますが削減できました。

引き続き、会議のペーパーレス化、両面印刷や縮小印刷、保管資料の電子化などを推進していきます。また、事業所内で使用したOA紙の100%リサイクルを目指します。

●OA紙使用量(6拠点合計)

年度	2004	2005	2006	2007	2008
OA紙使用量(t)	41.6	46.8	41.7	42.6	41.5

注) 集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試業(株)の西神工場、小野工場

従業員のアイデアでエコ活動を推進しています

「1人1日1kgCO₂削減」を目標に、エコ推進チームを結成して全社で活動しています。

こまめな消灯やエコバッグの利用、エコ運転など、従業員一人ひとりがエコ宣言して実行し、イントラネットを通じて紹介、情報交換しています。



イントラネットの「1人1日1kgCO₂削減」

物流における環境配慮

トラックのCO₂排出削減に取り組んでいます

シスメックス(株)は、グループ会社であるシスメックス物流(株)と協力してトラックのCO₂排出削減に取り組んでいます。

2007年には、排出ガスがクリーンな天然ガストラックを日本で始めて導入しました。2008年には、西神工場で、集荷に来る冷蔵トラックのための専用電源を設置し、電力を取れるようにすることで、アイドリングをストップできるようにしました。



冷蔵トラックのための専用電源

35%削減

2008年度、全自動免疫測定装置「HISCL」の梱包材に関して、強度を確保しながら梱包材料の主材料であるダンボールの減量を図ることで、従来比約35%軽量化しました。



環境に配慮した製品の開発

環境負荷物質の削減

RoHS指令への対応を着実に進めています

EU(欧州連合)のRoHS指令^{※1}は、現在は医療機器は適用外であるものの、適用に先行して有害物質の削減を進めています。

2007年度以降に発売した新製品については、すでに対応を完了しています。その他の製品については、調達・開発部門が中心となって、代替品への切り替えを順次進めています。なお、中国版RoHS^{※2}については、規制対象物質に関する表示義務が課されましたが、すでに対応を完了しました。

※1 RoHS指令：EUで販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属(鉛、カドミウム、水銀、六価クロム)と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)の使用全廃を要求したもの。

※2 中国版RoHS：電子情報製品汚染防止管理弁法。規制対象物質の表示義務および使用禁止を要求。

大量の化学物質情報を効率的に管理できる

データベースの構築を検討しています

2008年度には、EUのREACH規則^{※3}に対応するために、研究開発部門が中心となって指定化学物質の予備登録を進め、期間内に完了しました。また、人体や環境に特に大きな悪影響を与える「高懸念物質(SVHC)」について、製品・部品への含有調査に着手し、現時点で公開されている物質群については調査を完了しました。

今後、同規則によって大量の化学物質について登録や申請が必要になることから、これらの情報を効率的に管理するためのデータベースを構築することを検討しています。

※3 REACH規則：企業に対して、欧州で生産ないし欧州に輸入する化学物質(1トン/年以上)について、「人類・地球環境への影響についての調査」「欧州化学庁への申請・登録」などを義務付けたもの。

グリーン調達に取り組んでいます

シスメックスは、製品に含まれる環境負荷物質を削減するために、部品・材料の調達先にご協力いただいています。

「グリーン調達基準」を策定してWEBサイトで公開し、さらに排除する有害物質を開示することで製品からの環境負荷物質の排除に取り組んでいます。

製品梱包における環境配慮

梱包材の軽量化に取り組んでいます

シスメックス(株)は、環境に配慮した製品開発の一環として、梱包材の軽量化に取り組んでいます。

臨床検査機器は精密機械であることから、輸送時に振動などで品質が低下しないよう、厳重に梱包する必要があります。当社では、十分な強度を確保しながら重量を減らせるよう、梱包材の材質や梱包形態の見直しを推進しています。

製品廃棄における環境配慮

リース製品を適切に処理しています

シスメックス(株)が販売した医療機器は、病院など医療機関の所有となり、各医療機関のルールに沿って廃棄されています。

一方、医療機関に対して当社が機器をリースしている場合もあり、その場合、機器は当社の所有となります。リース期間が終了した機器については、「製品廃棄マニュアル」にしたがって当社が引き取って適切に廃棄しています。回収から廃棄までのプロセスを確実に実行できるように、機器一台一台にマニュアルを作成しています。

環境サイトデータ(生産・物流拠点)

対象期間: 2008年4月1日~2009年3月31日

地域		日本						
社名		シスメックス(株)	シスメックス国際試薬(株)	シスメックスメディカ(株)	シスメックスRA(株)	シスメックス物流(株)		
工場・事業所		加古川工場	西神工場	小野工場	—	—	—	
所在地		兵庫県加古川市	神戸市	兵庫県小野市	兵庫県姫路市	長野県塩尻市	兵庫県小野市、神戸市	
延べ床面積(m ²)		9,970	14,789	6,000	1,447	3,200	65,923	
主な業務		機器製造	試薬製造	試薬製造	機器製造	機器製造	物流	
従業員数		287	202	77	74	98	29	
ISO14001 認証取得年月		2000年4月	2007年6月	2001年3月	2001年3月	2008年6月	2001年3月	
Input	電力(千kWh)	1,344	3,548	1,250	170	374	709	
	燃料	ガス(千Nm ³)	4.2	44.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		LPG(t)	0.0	0.0	48.1	0.0	0.0	0.0
		ガソリン(kl)	4.4	1.6	0.9	0.6	4.0	0.4
		灯油(kl)	0.0	41.6	0.0	0.1	0.0	0.0
		軽油(kl)	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
水使用量(m ³)	7,366	17,917	40,611	493	3,341	375		
Output	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	764.9	2168.1	840.2	101.6	217.1	394.2	
	廃棄物総排出量(t)	124.5	172.7	110.1	5.7	58.5	シスメックス国際試薬(株)を含む	
	排水量(m ³)	9,540	16,195	21,929	493	3,341		

地域		America		Europe	China	Asia			
社名		シスメックスリージェンツ アメリカ	シスメックス ブラジル	シスメックス ヨーロッパ	シスメックス 済南	シスメックス 無錫	シスメックス アジアパシフィック	シスメックス インド	
工場・事業所		イリノイ 工場	カリフォルニア 工場	ブラジル 工場	ノイミュンスター 工場	済南工場	無錫工場	シンガポール 工場	
所在地		米国 イリノイ	米国 カリフォルニア	ブラジル パラナ	ドイツ ノイミュンスター	中国山東省	中国江蘇省	シンガポール ウッドランド	
延べ床面積(m ²)		5,400	2,700	1,700	4,600	6,000	6,557	2,113	
主な業務		試薬製造	試薬製造	試薬製造	試薬製造	試薬製造	試薬製造	試薬製造	
従業員数		21	4	10	26	54	45	8	
ISO14001 認証取得年月		未取得	未取得	2006年5月	1999年11月	未取得	未取得	未取得	
Input	電力(千kWh)	926	464	121	504	308	350	256	
	燃料	ガス(千Nm ³)	54.2	8.1	0.0	57.2	0.3	0.0	0.0
		LPG(t)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		ガソリン(kl)	0.0	0.0	0.2	0.0	10.0	6.2	0.0
		灯油(kl)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		軽油(kl)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.1	0.0
水使用量(m ³)	22,273	17,011	6,310	33,121	26,153	5,870	2,539		
Output	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	626.7	274.4	67.5	398.6	220.9	209.0	142.3	
	廃棄物総排出量(t)	32.2	7.0	7.7	86.1	14.0	70.0	6.5	
	排水量(m ³)	20,645	16,115	1,890	16,978	5,016	2,807	2,539	

注1) 海外工場の環境負荷データは、各工場の基準に基づき算出しています。
注2) 従業員数は2009年3月末日付けデータです。

注3) CO₂排出量は、日本のガイドラインの係数を用いて換算しています。
注4) 排水量について、測定していない工場については水使用量を掲載しています。

サイトピックアップ

シスメックスブラジルの植樹活動

シスメックスブラジルでは、毎年、植樹活動に取り組んでいます。植樹後も樹の健康状態をモニタリングし、成長を見守っています。2008年度は23人の従業員が参加して、市民公園に42本を植樹しました。



シスメックス物流(株)が「物流環境特別賞」を受賞

シスメックス物流(株)は、天然ガス10トントラック(エコトラック)の導入が高く評価され、2008年6月、(社)日本物流団体連合会から「第9回物流環境特別賞」を受賞しました。





シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp



この冊子は、環境に配慮した用紙と大豆油インキおよび水無し印刷を採用しています。